

# 日本医師アマチュア無線連盟会報

## No.75

## 第39回MARS総会報告

MARS 会長 JA7AOM 及川 忠人(岩手県)

第39回 MARS 総会は平成27年4月11日(土)に JR 京都駅前メルパルク京都において盛會裡に開催されましたことを心から感謝と共にご報告申し上げます。今回の MARS 総会は第29回日本医学会総会 2015 関西の開催中の集まりとなり、JA3ASU 局狭山信矩先生の長期に亘る準備期間とご尽力と関西地区の諸会員先生の協力により、楽しい交流のひと時を与

えられて感謝でございました。久々に共に Eye Ball Meeting を楽しむことが出来たことや、様々なことが話題となり MARS の活動力の糧になったことは有難いことでもあります。また JH3AEF 局東條純一先生の御尽力によりまして第29回日本医学会総会会場の京都国立国際会館屋上に手製のアンテナを設置頂き、「8J3M」医学会総会記念局の運用を実施する

ことが出来ましたことも、誠に嬉しくまた有難く心から感謝申し上げます。特に医学会総会特別プログラムへの位置づけを好意的に医学会総会事務局が行い、日経メディカル誌の取材を受けたことも画期的なことであったと思います。



今回の記念局 8J3M の運用については日頃の医業活動とはことなるアマチュア無線業務に没頭する会員諸先生方の存在感がとても注目されることになり、大きなイベントでしたが実りあるサービス活動になったのではと思います。諸先輩先生方のご指導により、今回のイベントは素晴らしい内容と成績になったことは感謝であります。特に記念局が各地域の会員の諸先生方が各地においてサービスを行い、全交信局総数が8,000局を超える実績を残すことが出来ましたことは MARS の歴史に残るイベント活動となりました。御支援御協力を頂いた MARS 会員各位に心から感謝申し上げます。

日頃医業に忙殺されて、中々参加出来ない MARS 会員も多いわけでしょうが、全国展開の医学会記念局として「8J3M」のコールサインが有名になったことは意義深いことであると思います。小生も遅ればせながら其の参加局の一員として「8J3M/7 移動局」として50W 送信の登録トランシーバーにて交信を続けることが出

来ました。特に自宅と職場で HF7MHz 帯を中心に記念局としての活動が3月15日から5月14日まで行なわれ、2か月間の短期間のサービス活動ではありましたが、多くに局から 8J3M/1/3/9/7 等のコールサインを聞きましたとの声を時々交信情報として伺い、今回のネットは極めて重要なイベントであり、MARS 活動の大きな存在意義をアピールする良い機会になったことは間違いのないことであると思います。この MARS 京都総会の設営に御尽力頂きました狭山信矩先生そして京都国際会館にアンテナ設置等の御尽力頂きました東條純一先生に重ねて感謝申し上げる次第であります。



今回の第39回 MARS 総会において、昨年の8月下旬に小生が勤務する東八幡平病院アマチュア無線クラブが岩手県主催の地域防災訓練に参加した時の記録を冊子を総会資料と

してお配りすることが出来ました。約15年前に岩手県の県央北部にある我が勤務先の真南の岩手山が火山噴火活動の可能性が高いとの火山情報が出され噴火注意情報が緊急に発令されて、その対応に苦慮した時代がありました。当時の MARS 会長でありました故大門先生の御指導を得て地元の旧松尾村にアマチュア無線のネットワークを構築し、地域防災にお役に立つべく、防災訓練等に参加した記録が MARS ニュースに残されております。その後各地で多くの大地震がありました。さらに4年6か月前には東日本大震災があり特に岩手・宮城・福島は巨大な津波による甚大な被害を受けました。小生は小さな活動ではありますが被災地支援活動を継続する経過の中で、日頃の活動の積み重ねの重要性が少し理解出来たようにも思われます。昨年の夏に、久しぶりで岩手山の噴火活動により火砕流が発生したことを想定した、岩手県防災訓練が地元の八幡平市にて開催されて、その活動記録として地域の有志がまとめた冊子を参考資料として後ほどお読みいただきたいと思っておりますので宜しくご配慮をお願いいたします。多発する局地災害等もあり、今後の各地域での活動に少しでも参考になれば有難いと思ひ御了解頂きたいと存じます。

また今回、岩手医科大学災害地域医療支援教育センターの眞瀬智彦教授にお願いして、東日本大災害での医療活動と大規模災害支援の在り方について御講演を頂きました。特に今回は4年6か月前の東日本大震災の防災本部にて活躍された御経験をもとにして眞瀬先生に御講演を頂き、MARS 会員にとっては有意義な学びの時であったと確信するものでございます。特に広域災害時の通信手段についての課題等も含めての御講演はとても素晴らしい内

容であったと思います。眞瀬智彦先生はもともと脳外科専門医であります。岩手県の DMAT のリーダーとして長年活躍されて、東日本大震災の時には県庁に入り全体の指揮をとり、岩手方式の中心的役割を担った経験や様々な組織が一同に会して、支援活動を進める時に手法等は高く評価されるべきであると思ひます。

御講演の後に熱心な討論がなされました。今回は東日本大震災における福島原発の課題が提言されましたが、この大きな課題を真摯に受け止めて、MARS 会員にとって何が出来るのかという問いを持つことが大切ではないかとか、様々な意見が出されました。新しい年度の活動目標に、原発問題の学びを進めることが必要であるとの貴重な意見も出されたので、新年度活動方針に入れることに致しました。

懇親会はとても和やかに行われました。年に1度ですが、このような機会を通してそれぞれの交流を図ることの重要性を痛感した次第であります。2次会においてはゆったりとした中で、次年度の総会の開催地等の意見が出されましたが、次回の平成28年度は福島市にて開催する方向になりました。その時には原発問題も学び直す時間を確保することも大切であるとの意見も出されました。

今回の MARS 総会への参加と同時に第29回日本医学会総会 2015 関西の開会式に参加することが出来ました。厳重な警備の下国際会館に入館は出来ましたが、メインホールに入るとは満席で不可能でありました。キッツオーケストラの開幕の演奏の終曲の部分を岩手県沿岸被災地の大槌中学の生徒さん達がブラスバンドの演奏を共演致した時には、涙を禁じ得ませんでした。この医学会総会は8年前には大阪で開催され、4年前は東日本大震災により、形

式的開催に留まったことに日本医学会の開催継続の歴史の重さを感じました。開会式での特別講演はノーベル賞受賞者の山中教授の御講演でありました。山中先生の研究への情熱がひしひしと伝わってくる素晴らしい御講演でありました。開会式を終えて国際会館から京都 JR 会場に向かったのです。

また 8J3M/3 で各地域それぞれの場所で運用されている MARS 会員の活躍も目立ち、医学会総会および MARS 日本医師アマチュア無線連盟の存在をこの日本の社会に示す良い機会になったことは、とても感謝であります。先日横浜医師会の中島進先生からの MARS に関する問い合わせが東條先生おところに届いており、小生の方から MARS の紹介と 8J3M の交信カードを記念に送付させていただき先日の医師会報に掲載されましたことは嬉しいことであります。

翌日はエクスカーションに琵琶湖北端の梅津海岸を目指しました。丁度桜が美しく満開の状態でもあり、車の混雑は予想以上であり、昼食会場・湖里庵に到着する時間が遅れてしまい、参加各局にかなりの御迷惑をおかけすることになりました。昼食は琵琶湖産の鮎を中心とした珍しい日本食を美味しく楽しませて頂きまして、感謝で御座いました。また梅津より東に琵琶湖に突出した大崎には、湖水伝いに見事な桜並木が延々と続き、江戸時代に桜が植えられて、それが現在の桜並木として伝わっているとのことですが、それが丁度満開となり、絶好の桜花見となり、めったに見ることが出来ない満開桜の花見を昼食会場から遠望しつつ楽しませて頂き、御準備して頂いた狭山先生の御配慮と御尽力に改めて感謝申し上げたいと思われました。さて往路の極めて厳しい車両道路事情

から、その状況が極めて悪いこともあり、北端の木之本町を經由して北陸自動車道に乗るルート選んで名神高速道路を經由して京都を目指すことになりました。そのため一挙に京都駅を目指す帰路のコースになり、東北に住む者としては北陸自動車道に乗る機会は少ないのですが、今回、自動車道に乗りながら長浜市、東近江市の名神高速道を経て京都駅に無事予定時間内に到着することが出来ました。各局のメンバーはそれぞれ京都駅から帰路に向かうことが出来ました。色々とエクスカーションにあたってはきめの細かい御配慮、お世話を頂きました狭山先生御夫妻に重ねて御礼申し上げます。



今回の琵琶湖梅津のエクスカーションは小生にとっては、学生時代にボート部に所属していたこともあり、「琵琶湖周航の歌」がとても懐かしく「竹生島」や「今津」、「長浜等」の懐かしい地名のある琵琶湖周辺を観光バスではありますが、周遊したことが出来ましたことはとても有難いことであります。そして琵琶湖周航の歌の歌詞の素晴らしさを今一度昔の学生時代に遡りながら思い出に心を洗うことが出来ましたことは、この MARS 会員としてのこの総会を重ねて来たことによる不思議な神さまの賜物であると思われました。

小生は昭和40年(1965年)春に岩手医科大

学医学進学過程に入学して、2年生の時に盛岡市内にある高松の池に岩手県漕艇協会所属のナックルフォア「松風」を同級生を中心に編成して湖面に浮かべた時から、丁度来年の2016年春が満50周年になります。その船を浮かべた漕艇同好会の発足を岩手医大ボート部の発祥の時期に定めて来年の11月にボート部創立50年を祝うことが先日きまり、半世紀の道のりは経過してみますと一瞬のようでもあります。様々な思い出があり、学生時代に育てて頂いた多くに諸先生先輩方や沢山の後輩諸先生方のつながりは今でも保たれております。その時と同期して岩手医大に学生アマチュア無線クラブを結成したのも偶然同じ時期に重なります。そのような自分の小さな趣味を通しての時間の流れを思い浮かべる機会を与えて下さったのが今回のエクスカージョンであり、50年の経過という驚きを実感するわけですが、中々現実のことに受け止めることが出来ない自分を発見致しました。

MARS 会員であり、アマチュア無線を通して、多くに御指導とそれぞれ多くの趣味、学術を経

験した各世代の医師が日頃の激務から解放されて、自由な立場でアマチュア無線に熱中して六中観(安岡正篤)の「壺中天有」の胸中で毎日の人生を生き生きと生きるための活力になることが MARS の活動の源流であり、会員相互の交流が世代を超えて行われることの重要さが、素晴らしい趣味を通して認識されることになったように思われます。いずれにしても電波を使わせて頂いていてそれより楽しい時と交流の場を与えられていることへの感謝として、地域社会に危険な事態が起これば、少しでも緊急の情報確保ならびに地域住民の安心と安全に係わることや、非常通信への心構えを日頃に涵養することも私達 MARS 会員に課せられた使命であり役割であることを共に共有しつつ、この年度の後半への活動の起点になることを期待しつつ、第39回日本医師アマチュア無線連盟 MARS 京都総会へのつたない報告に替える次第であります。MARS 会員各局の活動への御支援・御協力に心から感謝申し上げる次第であります。



# MARS 会員都道府県別分類

## J A 1 18局

東京都 JA1FF JA1BOW JF1SXY  
 JK1AIN JL1BGP JP1HIS  
JR9FQO  
 神奈川県 JH1IAA **JH1BPF** JE1TNL  
 埼玉県 JR1CDJ JR1JIC JL1LRJ  
 茨城県 JI1VAH  
 群馬県 JA1KXT JR1SJD  
 千葉県 JM1BIX  
 栃木県 JO1RTV  
 山梨県 なし

## J A 2 8局

愛知県 JA2DQH JH2QBQ JR2AXV  
 JG2XEJ  
 静岡県 JA2BIV JE2ANG JO2DBR  
 岐阜県 JA2MTE  
 三重県 なし

## J A 3 32局

京都府 JA3ASU JH3SQM JH3SQN  
 JR3HFS JR3JJQ JF3BIE  
 JF3ITN JF3NXJ  
 大阪府 JA3BQT JA3LDH JA3WKF  
 JH3AEF JR3LJI JE3RZA  
 JF3EKP JF3MTM JJ3MIG  
 JL3SIK **JM3FUW** JO3VKD  
 滋賀県 JF3PMG  
 兵庫県 JA3XED JH3GOB **JH3QMF**  
**JO3RUL**  
 奈良県 なし  
 和歌山県 JH3TCC JF3JON JI3CIN  
 JJ3KUL JM3BCQ JN3ASW  
**JP3CCC**

## J A 4 3局

岡山県 JE4EWM(exJA5LDZ)  
 広島県 JH4DPL JH4UYB  
 鳥取県 なし  
 島根県 なし  
 山口県 なし

## J A 5 3局

香川県 なし  
 徳島県 JA5GPJ JA5POS  
 愛媛県 なし  
 高知県 JH5KAJ

## J A 6 6局

福岡県 JA6BMB JA6RQK JH6IBM  
 JE6IUM JG6DAO  
 大分県 なし  
 熊本県 なし  
 宮崎県 なし  
 鹿児島県 なし  
 佐賀県 JR6EZJ  
 長崎県 なし  
 沖縄県 なし

## J A 7 19局

青森県 JA7VAB  
 秋田県 JE7MMC  
 岩手県 JA7AOM JA7PPA JH7IIR  
 JH7OLB JH7XGQ JG7CRJ  
 山形県 なし  
 宮城県 JA7DOR JA7EVM JA7WTH  
 JH7CAI JH7EQW JH7QFA  
 JR7CAD JP7DMV  
 福島県 JA7FHH JE7GFM JP7FSO

## J A 8 3局

JA8JDQ JA8RSJ JI8MVL

## J A 9 2局

富山県 なし  
 石川県 JK1QLR  
 福井県 JE9RWF

## J A 0 3局

新潟県 JH0LME JR0NQU JR0QWW  
 長野県 なし

**赤文字** は新入会局

           は他エリアからの移動局

**計97局** (2015年9月現在)

# 第 39 回 MARS 京都総会

2015 年 4 月 11 日 (土) 午後 4 時～

JR 京都駅前 メルパルク京都 4F

**挨拶および日程説明 JA3ASU 狭山信矩(京都府)**

これまでの準備において医学会総会の進行と合わせて進んでおり、ホテルの確保ならびに 4 月 11 日(土)の開催にあたり、必ずしも十分な確認が出来ないままに進んでしまい、特にホテルの確保がとても困難であり、ご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。今回は午後 4 時から第 39 回 MARS 総会を行い、岩手医大からの眞瀬智彦教授の貴重な御講演を伺い、午後 6 時から 7 時半までの懇親会という、医学会総会のスケジュールにあわせての時間設定になっていることを御了解お願い申し上げまして、総会準備担当からの御挨拶に替えさせて頂きたいと思っております。

**司会進行 JA3ASU 狭山 信矩**

**開会の言葉 JA3ASU 狭山 信矩**

**会長挨拶 JA7AOM 及川 忠人(岩手県)**

本日は御多忙中にもかかわらず、第 39 回 MARS 総会にお集まり頂きましたことを、心から感謝申し上げます。さて今回の MARS 総会は第 29 回日本医学会総会開催中の集まりになり、何かと忙しい中にも係わらず、共に **Eye Ball Meeting** を楽しむことが出来ますことも、この上の無い喜びでもあります。この MARS 京都総会の設営に御尽力頂きました狭山信矩先生に心から感謝申し上げる次

第であります。

今回の総会は第 29 回日本医学会総会をはさんで特別記念局を運用することになり、そのコールサインも 8J3M という稀有な象徴的な呼び出し符号の交付を頂き、会員各位がすでに、様々なバンドや多忙な中にも時間を造り交信業務にサービスされており、とても良い機会になったと思います。運用期間は 6 か月を要望したのですが、医学会総会の前後 2 か月間の 3 月 15 日から 5 月 14 日の期間限定運用の免許を受けております。

すでに京都国際会議場において 8J3M の公開移動運用も MARS 名誉会長の JH3AEF 局東條純一先生を中心に整備実施され、すでに運用に参加された MARS 会員も多いと思いますが、アマチュア無線をアピールする絶好の機会になるのではないかと、とても有難いことと受け止めております。

また 8J3M/ portable で各地域それぞれの場所で運用されている MARS 会員のご活躍も目立ち、医学会総会および MARS 日本医師アマチュア無線連盟の存在を社会に示す良い機会となったことは、嬉しい限りであります。

我々のアマチュア無線業務は趣味としての楽しみとして電波を使わせて頂いて居ることへの感謝として、地域社会に危険な事態が起これば、少しでも緊急の情報確保ならびに地域住民の安心と安全に係わることも、可能な

立場にあります。

昨年の8月下旬に小生が勤務する東八幡平病院アマチュア無線クラブが地域の防災訓練に参加した時の記録を資料としてお配り致しました。約15年前に岩手県の県央北部の岩手山噴火情報が出されて、その対応に苦慮した時代があり、アマチュア無線のネットワークを構築して、地域防災にお役に立つべく、防災訓練等に参加した時代がありましたが、今回、久しぶりで岩手山の噴火活動により火砕流が発生したことを想定した、防災訓練が地元で開催され、その記録として地域の有志がまとめたものであり、多発する局地災害等もあり、今後の各地域での活動に少しでも参考になれば有難いと思ひ総会資料の一部とさせて頂きましたことを御了解頂きたいと存じます。

また今回、岩手医科大学災害時地域医療支援教育センターの眞瀬智彦教授にお願いして、大災害時の対応とこれからの大災害への準備の在り方について御講演を頂くことになりました。眞瀬先生はもともと脳外科医であります。岩手県のDMATのリーダーとして活躍され、東日本大震災の時に県庁で全体の指揮をとり、岩手方式の中心的役割を担った先生であります。MARS会員のお役に立つ御講演を頂けるものとの確信するものであります。

今回第29回日本医学会総会の期間にあわせて第39回MARS総会を本日に開催することが出来ますことは、担当の狭山先生や記念局設置に御尽力頂きました東條先生そして地元の3エリアのMARS会員諸先生方の御支援、御協力への重ねての満腔の感謝をもって、MARS京都総会開催に際して、

MARS会長の挨拶に替える次第です。本日は誠にありがとうございました。

**議長選出 JH2QBQ 丸山 暢 氏(愛知県)**  
を参加会員からの推薦により選出

### 報告事項

**平成26年度庶務報告 JL1BGP 井上 文正 (東京都)** 代理 JF3JON 田中憲児

MARS 会員(会員数95局)の動静について、昨年の新しい MARS 局名録を中心に各エリア別に局数の報告ならびに新入会局の報告がなされた。

### 平成26年度事業報告

**MD ネット 3.5M JA1KXT 相田信男(群馬県)**  
代理 JH3AEF 東條純一

3.5MHz 帯の一年間の報告については、JH3AEF 東條純一先生が代理でご報告された。(資料1)

比較的安定している状況のご報告となった。

**MD ネット 7M JH7QFA 渡辺孝志 (宮城県)**

7MHz 帯の MD ネットの年間の交信状況を別紙(資料2)の如く、報告した。電波状況が不安定な時もあり、また混信に悩まされる現状の中であるが、MD ネットが継続されていることが報告された。

**MARS NEWS JF3JON 田中憲児(和歌山県)**

久留米総会の内容を中心に編集した MARS NEWS No74 号を発刊した

**MARS HOME PAGE JH3TCC 家田勝幸(和歌山県)**

第29回日本医学会総会記念局 8J3M/3の運用について HP 上にアピールしたことが報告された。



## MARS AWARD JA1KXT 相田信男(群馬県)

代理 JH3AEF 東條純一、JI1VAH 天谷龍夫

## 1)MARS 医学 アワード 発行状況

次の局から申請あり、発行した。年間賞対象局。

No.178 JH2DLJ 川上正直殿 (classB,)

2014.7.24.発行 : 年間賞当選局

No.179 JH4EYD 谷口浩司殿 (classB)

2014.7.31.発行

No.180 JH4GXE 木山達三殿 (classB,

All 7MHz SSB) 2014.9.26.発行

No.181 JA3FME 鉄谷康博殿 (classB,

All SSB) 2014.12.31.発行

## 2)MARS 医学 アワードⅡ 発行状況

今年度は久しぶりに、次の局から申請あり、発行した。

No.A-4 JA4KCG 吉岡昌彦殿 2014.11.23.

発行

No.B-12 JK8HXB 石山 勝殿 2015.3.30.

発行

## 3)MARS 医学 アワード 会計

収入の部 前年度からの繰越 3,028 円

MARS AWD 申請料 3,200 円

合計(A) 6,228 円

支出の部 AWD 送料 840 円

昨年度年間賞送料 1,160 円

その他(クリアファイル他) 2,592 円

合計(B) 4,592 円

\* A-B=1,636 円 ⇒ 次年度に繰り越し

\* 年間賞トランシーバー購入費は、本会計から支払われる。

## 4)8J3M QSL 関係会計

デザイン料 10,000 円

カード印刷代 104,499 円

配送料 8,316 円

文具代 216 円

合計 123,031 円

## 平成26年度 会計報告 JL1BGP 井上文正

収入の部	予 算	決 算
繰越金	1,729,455	1,729,455
会費収入	500,000	503,000
その他(預金利息)	100	95
収入合計(A)	2,229,555	2,232,550

支出の部	予 算	決 算
MARSニュース	150,000	118,260
MARSアワード(印刷、副賞リグ)	30,000	93,270
ホームページ管理費	120,000	120,000
送料通信費	30,000	17,801
ニュース、コールブック		(15,200)
入会案内その他		(2,601)
総会助成金	100,000	100,000

事務用品費	5,000	0
事務員謝礼金	60,000	60,000
慶弔費	20,000	0
雑費	5,000	0
支出合計(B)	520,000	509,331

(A)-(B)=次年度繰越額	1,709,555	1,723,219
内訳 郵便貯金		1,720,877
現金		2,342

### 会計監査報告

帳簿、通帳、領収書等を厳正に確認の結果、会計は適正に運用されていることを確認しました。

平成27年4月6日 監事 JA1FF 国府田 守雄 監事 JH3GOB 稲見 修

### 協議事項

平成27年度事業計画案 JA7AOM 及川忠人	6) MARS 新入会員入会の支援活動を推進する
1) MD ネットの充実を図る	7) 8J3M 日本医学会総会記念局の運営を拡大する
2) MARS News の充実を図る	8) 福島原発の課題を学び、被災地支援の在り方を検討する
3) MARS アワードを継続する	9) その他
4) MARS Home Page の充実を図る	
5) 災害時および局地災害時の MARS network の対応を検討する	

平成27年度予算案 JL1BGP 井上文正 承認

収入の部		支出の部	
繰越金	1,723,219	MARSニュース	150,000
会費収入	500,000	MARSアワード	30,000
その他		ホームページ管理費	120,000
日本医学会からの	400,000	総会助成金	100,000
補助金		日本医学会からの	400,000
預金利息	100	補助金	
合計(A)	2,623,319	事務員謝礼	60,000
		送料・通信費	30,000
		慶弔費	20,000
		事務用品費	5,000

雑費	5,000
----	-------

合計(B)	900,000
-------	---------

(A) - (B) = 次年度への繰越金 1,709,555

特別講演会 17:00~18:00

『東日本大震災での医療活動と  
今後の大規模災害支援のあり方』

講師: 岩手医科大学

災害時地域医療支援教育センター 教授

眞瀬 智彦 先生

懇親会 18:00~19:30

二次会 20:00~21:30 同ホテルにて歓談

エクスカージョン

4月12日(日)

京都駅 8:00 発 琵琶湖北辺梅津 探訪(観  
桜会)

京都駅 午後4時 解散

交通渋滞に巻き込まれながらも、徒歩もあわせて琵琶湖名所を訪ね、また美味しい琵琶湖の郷土料理を堪能させて頂き感謝の時を持たせて頂きました。

## 第39回MARS京都総会出席者

JH1IAA	田宮 親, XYL
JR1CDJ	大久保 嘉明
JI1VAH	天谷 龍夫
JK1AIN	中村 幸伸
JL1BGP	井上 文正
JL1XWR	井上 喜代
JH2QBQ	丸山 暢
JH2UDD	丸山 成子
JA3ARY XYL	大門 公子
JA3ASU	狭山 信矩, 陽子
JH3AEF	東條 純一
JH3GOB	稲見 修
JH3TCC	家田 勝幸
JH3SQM	郷原 憲一
JH3SQN	郷原 望美

JF3BIE	鍵本 伸二
JF3JON	田中 憲児
JF3MTM	柴田 敏弥
JM3FUW	中島 静一
JN3ASW	三好 壮一
JH6IBM	石井 文理
JA7AOM	及川 忠人
JH7QFA	渡辺 孝志
JH7IIR	齊藤 和好
JP7FSO	高瀬 信弥
JE9RWF	岩堀 嘉和
JR0NQU	山本 賢, XYL
豊島区	北野 新弓
特別講演講師	眞瀬 智彦

## 資料1

## MARS・MD-net on 80m band (2014.4.~2015.3.)

0600~0630JST / 3.562 あるいは 3.565 MHz

(しばしば開始 10~15 分前に KXT,VAH がラグチュー pse BK)

2014年4月2日	10		2014年10月1日	9	
2014年4月9日	8	(KXT:SV2/A get と)	2014年10月8日	10	KXT:同軸交換尾骨骨折
2014年4月16日	8	3-7 繋がらなくなる	2014年10月15日	9	
2014年4月23日	8	CDJ:電子カルテ開始	2014年10月22日	10	全国ひと筆書き出来た
2014年4月30日	5	KXT:QRT	2014年10月29日	9	
2014年5月7日	7	FSO:トントは寒かった	2014年11月5日	8	
2014年5月14日	8	VAH:日の出北に、 AEF:先週白馬	2014年11月12日	6	Cond:完全冬型
2014年5月21日	8	総会近し	2014年11月19日	9	
2014年5月28日	8		2014年11月26日	10	
2014年6月4日	9	3-7 厳しい、信号は分かる。	2014年12月3日	3	
2014年6月11日	9	大雨の梅雨入り	2014年12月10日	9	vy FB condx / no QRM,QRN
2014年6月18日	10	VAH:和文講座している	2014年12月17日	8	
2014年6月25日	9	早朝から noisy	2014年12月24日	11	
2014年7月2日	10	久しぶりに全国 net 一巡	2014年12月31日	4	
2014年7月9日	8	台風8号接近、noisy	2015年1月7日	10	
2014年7月16日	8	→先週6mW にオープン	2015年1月14日	7	3562 他ネット→565QSY
2014年7月23日	9		2015年1月21日	10	(8J3M 準備)
2014年7月30日	8		2015年1月28日	10	
2014年8月6日	9	8/1KXT の PC 壊れる、 仙台七夕	2015年2月4日	11	(K1N 週間)
2014年8月13日	7		2015年2月11日	8	
2014年8月20日	11	JL1LRJ/0	2015年2月18日	10	
2014年8月27日	7	QFA:急に涼しくなり始めた	2015年2月25日	8	
2014年9月3日	8		2015年3月4日	11	1-3 間よくない
2014年9月10日	8	9/7 A52AEF QRV	2015年3月11日	10	KXT/50W
2014年9月17日	9	AEF 帰国	2015年3月18日	10	MC:8J3M/1(JA1KXT)
2014年9月24日	9	VAH タワー工事開始	2015年3月25日	13	MC:8J3M/1(JI1VAH)

\* 常連局:JA7AOM, JH7QFA, JP7FSO, JH7EQW, JI1VAH, JR1SJD JA1KXT,  
JR1CDJ, JL1LRJ, JH3GOB, JH3AEF, JR0NQU(順不同)

\* 年間を通じて、ネットのもてない日はなかった。

しかし暖かい時期には3-7が QSO 不可という状況だった。

## 資料2

## MD-net 7M(40m)ロールコール

毎週 6:30~7:00 7.060MHz

2014.6.4~2015.4.8

参加局数 18局

## MARS 7M キーステーション

## JH7QFA (渡辺孝志)

いつも QRM のなかの QSO ですが CQ MD ネットのコールにいつも FF, QBQ 各局にとって頂き助かっております。

今年はニューカマーの局長さんが少しずつでもネットに参加、これからもお空が賑やかになる事を期待しております。

QFA が全くコンタクト出来なかったのは今年の3月1回だけで例年よりはお空のコンディションは良かった様です。でも3月18日のあの空電ノイズは大変なもので HF の各バンドがアウト、驚きました。

QFA の QRT は2回、大晦日は AOM, TCC, FSO の各局に締めくくっていただきました。JI1VAH 局は年末年始 ZL から、9月には JH7EQW 局、JH3AEF 局が A5 から波を出して頂き MARS 各局とコンタクト出来て FB な年でした。

3月からは 8J3M の記念局が ASU, AEF OM のお働きで MARS 各局大賑わいでした。

常時 JH3AEF 局に JA7AOM, JH6IBM の各局にローカルスキップの際にはお願いしております。

JP7FSO 高瀬先生 今年もいつもモバイルからのコンタクト、FB でした。

局名	コンタクト回数
JA1FF	28
JA1BOW	1
JR1CDJ	31
JR1SJD	2
JL1LRJ	10
JI1VAH	44
JH2QBQ	28
JH3AEF	38
JH3GOB	33
JH3TCC	31
JF3JON	8
JH6IBM	6
JA7AOM	38
JH7QFA	44
JR7CAD	30
JP7DMV	2
JP7FSO	35
JRONQU	2

# 東日本大震災での医療活動と 今後の大規模災害支援のあり方

## 岩手医科大学医学部災害医学講座

眞瀬 智彦

### 1、阪神淡路大震災の教訓

阪神淡路大震災後の被災地内では、ライフラインが途絶し、医療機能が低下した病院へ多数の傷病者が殺到し大混乱をきたしました。医療資機材、急性期の応援医療チームは不足し、重症の傷病者を被災地外へ搬送することはほとんど行われませんでした。また、医療機関同士での情報共有もなされず、そのため、平時の救急医療が提供されれば助かった可能性がある災害死、すなわち防ぎえた災害死が約500名存在した可能性があるといわれています。

以上の教訓をもとに、1)災害拠点病院の設置、2)DMAT(災害急性期の派遣医療班)の養成、3)重症の傷病者を被災地外へ搬送する広域医療搬送計画の策定、4)医療情報の伝達・共有システムとしてのEMIS(広域災害救急医療情報システム)の開発などが行われました。災害医療は阪神淡路大震災を契機に体系づけられ、いろいろな取り組みがなされてきました。

### 2、岩手県の災害医療の取り組み(図1)

平成17年全国でDMAT 隊員養成を開始され、岩手県でもDMAT 隊員が誕生しました。平成19年新潟中越沖地震が発生し、全国からDMAT が新潟へ参集するも、岩手県としての

DMAT の派遣システムが構築されていなかったため、岩手県からのDMAT の派遣はありませんでした。

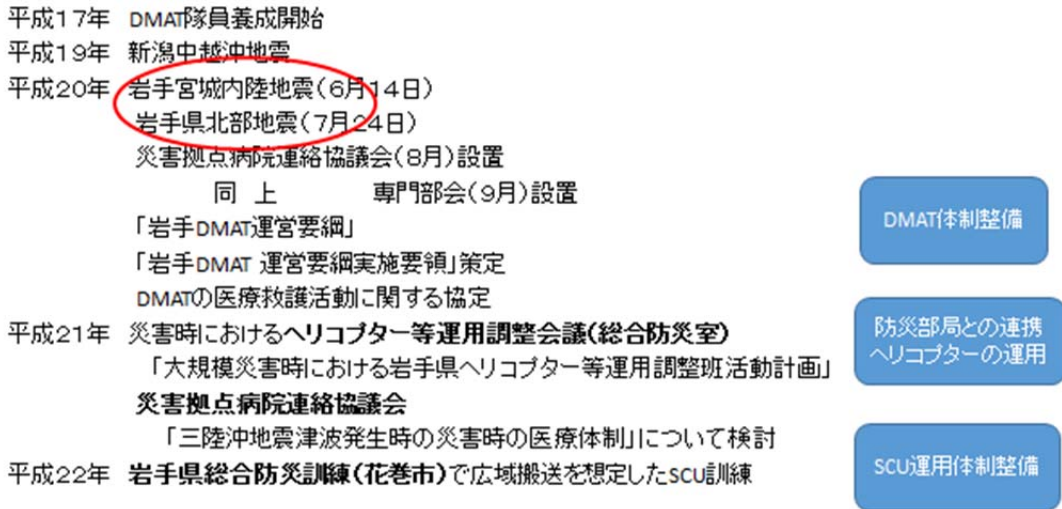
平成20年6月14日、岩手宮城内陸地震が発生しました。主な人的な被害は胆沢ダム付近の林道でのバスの転落事故です。この際DMAT 活動でさまざまな問題を提起しました。安全管理、情報共有・通信手段の確保、傷病者の分散搬送、医療と防災部局の連携、関係各機関のヘリコプターの運用調整等です。

岩手宮城内陸地震の約1ヶ月後、7月24日岩手県北部地震が発生しました。この地震では人的被害はなくDMAT の実働はありませんでしたが、県庁レベルでは関係各機関が参加し、情報共有・活動調整する連絡調整会議が開催されました。また、ヘリコプターの調整についても関係機関で運用調整会議も開催されました。医療についてもDMAT 隊員が連絡調整会議に参加し他機関との連絡調整を行いました。

このような経過のなかで、県庁保健福祉部は災害拠点病院連絡協議会を設置し、岩手DMAT 運営要綱、DMAT 運営要綱実施要領を策定し、DMAT を派遣する仕組みを構築しました。

平成21年には県総合防災室が、災害時に

## 図1 岩手県の災害医療の取り組み



おけるヘリコプター等運用調整会議を開催し、災害時の多機関ヘリコプターの運用調整について検討されました。また、災害拠点病院連絡協議会では、近く起こるといわれている三陸沖地震による津波発生時の医療体制についても検討されました。その際、傷病者が多数発生した場合には広域搬送が必要との認識にいたりました。平成22年9月花巻市で行われた岩手県総合防災訓練において、広域医療搬送を想定した SCU (Staging Care Unit) 訓練が花巻空港で実施されました。

### 3、東日本大震災での医療活動

前述のような取組みのなかで、平成23年3月11日東日本大震災・津波が発災しました。人的な被害の多くは津波被害であり、津波災害の特徴である生死がはっきりしていたため、重症者の数は被害の割には少ないものでした。津波被害により病院の診療継続が不可能となり、入院患者をはじめとした傷病者の病院避難がいくつかの病院で行われました。また、病院

機能が比較的保たれている医療機関でも医療負荷を軽減するため傷病者・入院患者を内陸の医療施設に移動させることが必要となりました。3月11日から1週間で約530人、3月末日までの20日間に約770人が内陸へ搬送されました。その搬送手段としてはヘリコプターが多数使用されました。発災7日間で約200人の傷病者を内陸へヘリコプター搬送し、岩手県内で収容しきれない傷病者は、広域医療搬送により北海道、秋田、東京へ、4日間で計16人搬送されました。

県庁での急性期の医療調整は県庁 DMAT 調整本部を中心とした医療班(日赤岩手県支部、岩手医科大学等と協力して)が、急性期の後の亜急性期～慢性期の調整機能として、岩手県と岩手医科大学が中心となり、岩手災害医療支援ネットワークを3月19日に立ち上げました(図2)。これは岩手県、岩手医科大学、岩手県医師会、国立病院機構、日本赤十字社が定期的に会議を開催し、被災地の情報を集約・共有し、総合的な沿岸被災地への支援調

**図2 岩手災害医療支援ネットワーク**

- DMAT(急性期)医療の次のステージの医療を行うための岩手県の調整本部(3月19日～)
- ・岩手県(保健福祉部、医療局)、岩手医科大学、県医師会、国立病院機構、日赤、その後、自衛隊、県警、看護協会、リハ団体等
- ・避難所の環境・健康管理、避難者の服用薬の確保、心のケア等
- ・医療チームに許可書を発行自己完結型、衛星携帯

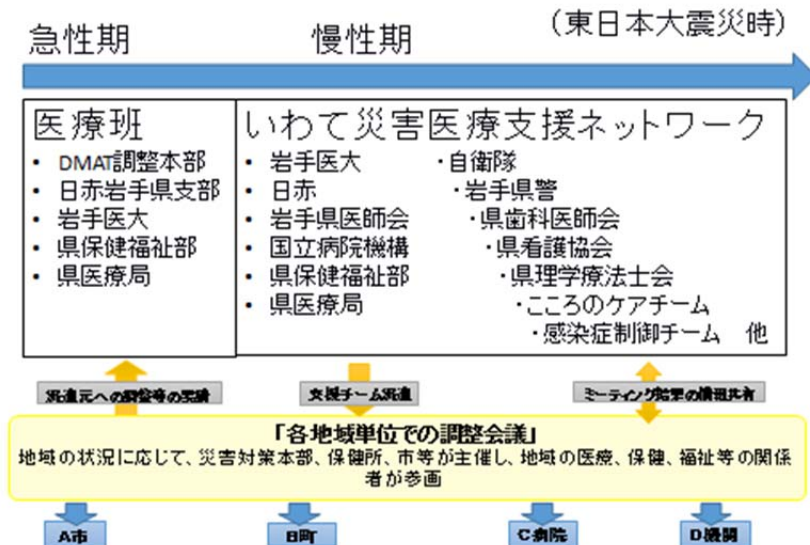


整を行うものです。当初のネットワークの目的は、避難所環境・健康管理、避難者の服用薬の確保、心のケアであります。そのときどきで被災地のニーズは変化するため、ニーズに合わせ参加機関も自衛隊、岩手県警察、看護協会、リハビリ関連団体、感染制御チーム等が加わりました。また、ネットワークの特徴として、支援医療班は一度県庁へきていただき、支援医療班としての登録をして、県は許可証を発行し調整した被災地へ入ってもらうこととしました。これは被災地の負担を少しでも減らすための対策として考えられたことです。ネットワークは7月末まで県内全般の調整活動を行いました(図3)。

今後、もし大規模災害が発生した場合には岩手災害医療支援ネットワークが立ち上がり、そのなかで災害医療コーディネーターを中心に県全体の災害医療の体制・調整が行われていくこととなるでしょう。

岩手医科大学では平成23年9月、日本ではじめて独立した災害医学講座を開講し、その活動拠点として平成25年4月、災害時地域医療教育支援センターを竣工いたしました。この体制のなかで、学生教育はもちろん医療関係者、行政職、救助関係者への研修会の実施、また災害医療を下支えするロジスティック関連の研修、小学校～高等学校での災害時の医療への理解を深めてもらう講座等、さまざまな研修会を開催しています。被災地岩手から今後の大規模災害へ対応できる人材を育成し、一人でも多くの命を助けることのできる仕組みを発信できたらと思います。

**図3 岩手県の災害医療のコーディネーター体制**





# 『第29回日本医学会総会 2015 関西』記念局 8 J 3 M(総交信数 8,719)

## 無線局免許状

免許の番号		近 A 第 598790 号		識別信号		8J3M	
氏名又は名称	日本医学会総会記念局 及川 忠人						
免許人の住所	岩手県盛岡市紅葉が丘 27-21 及川忠人様方						
無線局の種類	アマチュア局	無線局の目的	アマチュア業務用	運用許容時間	常時		
免許の年月日	平 27. 3. 15	免許の有効期間	平 27. 5. 14 まで				
通信事項	アマチュア業務に関する事項			通信の相手方	アマチュア局		
移動範囲	陸上、海上及び上空						
無線設備の設置場所/常置場所							
京都府京都市左京区田中下柳町 38-2 さやま医院内 狭山信矩様方							
電波の型式、周波数及び空中線電力							
	A1A	1910 kHz	50 W	3VA	145 MHz	50 W	
3HA		3537.5 kHz	50 W	3VA	435 MHz	20 W	
3HD		3798 kHz	50 W				
	A1A	4630 kHz	50 W				
3HA		7100 kHz	50 W				
2HC		10125 kHz	50 W				
2HA		14175 kHz	50 W				
3HA		18118 kHz	50 W				
3HA		21225 kHz	50 W				
3HA		24940 kHz	50 W				
3VA		28.85 MHz	50 W				
3VA		52 MHz	50 W				
備考							

法律に別段の定めがある場合を除くほか、この無線局の無線設備を使用し、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。

平成 27 年 3 月 2 日

近畿総合通信局長



日本医学会総会記念局 様

(所属支部：大阪府支部) (40)

ご入会いただきありがとうございます。

### JARL MEMBER'S CARD

- コールサイン 8 J 3 M
  - 氏名 日本医学会総会記念局
  - 会員期間 平成27年4月7日 ~ 平成28年4月6日
  - 会員種別 社団会員 ●発行日 平成27年3月17日
- 一般社団法人 日本アマチュア無線連盟

※○矢印方向にゆっくりはかして中身をご確認ください。

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟

※「JARL会員証」について、ご不明な点などございましたら、JARL事務局会員課までお問い合わせください。

JARL MEMBER'S CARD

JARL 会員証

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟

※「JARL会員証」は切り込み線に沿ってゆっくりとはかしてご利用ください。

## 8J3M 日本医学会総会記念局の運用経過について

MARS 会長 及川 忠人

第29回日本医学会総会 2015 関西のソーシャルイベントの一つとして、第 39 回 MARS 総会を御担当の JA3ASU 局 狭山信矩先生が位置づけられたことに心から感謝申し上げ、その基本構想を育んで実際の記念局設置にまで実務を担当された狭山先生に対して、日本医学会総会準備の厳しい状況の中にも係わらず、会員のホテルの予約等までお世話頂きそのご苦勞に対して深甚の謝意を申し上げたいと存じます。

昨年の暮頃から 2015 年4月の MARS 総会の持ち方を連絡している段階で、やはり記念局の運用をするご提案が東條純一先生からなされ、前回の大阪大会の経験から記念局の交信期間は六ヶ月を目指しコールサインも特徴的なものを交渉しているとの情報を得ました。遠隔地のこともあり、当方として御協力・御支援することがなく、総会の持ち方を狭山先生と連絡を取りながら、MARS 総会の準備を続けておりました。1月下旬になり、特別講演の内容と講師の決定が迫り、今年の1月下旬に大災害時の本部立ち上げの実務を含んだ研修会が開催されて、その時に岩手医大災害時地域医療支援教育センター教授の眞瀬智彦先生にお願いすることに致しました。その頃同時に、8J3M コールサインで記念局が開局できそうだとの情報で、とにかくなるべく早く決定させるために、記念局の申請書を狭山先生が小生のところに送付され、それを小生が申請者・責任者として近畿総合通信局にアマチュア局の記念局免許申請を

Operator	交信数
JA1KXT	205
JF1SXY	228
JI1VAH	1,700
JK1AIN	?
JL1LRJ	210
JA3ASU	100
JH3AEF	369
JH3TCC	659
JF3JON	1,285
JF3MTM	472
JO3RUL	631
JA7AOM	216
JP7FSO	1,817
JE9RWF	827
<b>TOTAL</b>	<b>8,719</b>

行うことになり、クラブ局の人員ならびに、運用期間が当初6ヶ月との予定で申請書を申請提出することになりました。実務はすべて狭山先生が行い、小生は署名と印鑑を押すだけでしたが、うまくゆくことを期待して、第 29 回医学会総会の内容や総会当局のソーシャルイベントへの位置付けのある書類や、狭山先生と医学会総会事務局との意見交換で MARS への支援意向の入った文書も併せて近畿総合通信局に送付致しました。近畿総合通信局とのやりとりもあり、運用期間は日本医学会総会を挟んで2か月位が標準ではないかとの意見もあり、そ

れに従うこととし、コールサインは申請者の意向を汲んで頂くことになった。

メンバーはMARS会員のうち各エリアから記念局を運用して欲しいとのMARS会員の意見があり、今回も小生を責任者として12名の参加局を含めて8J3Mをエリア別に運用する規定と試案を提出致しました。2月上旬に申請を行い、8J3Mのコールサインと運用期間が3月15日から5月14日まで交信を2ヶ月間続けることとした。当然移動局申請なので、50W送信で運用を行うことになり、無線局免許状が3月上旬に小生の自宅に送付されました。

3月15日からの運用を現実的な形にするために、免許状のコピーを運用予定各局に送付して、それぞれのエリアからの8J3M/portableの交信が始まりました。この時期に合わせて、東條先生のブータンでの国外運用のエクスペディションに重なり、8J3Mの活動範囲がにわかには国際的な活動へと拡大することになりました。

小生も自宅と勤務先(東八幡平病院)に50W機を移動させながら、8J3M/7のコールで地域との交流サービスを多忙な時間の合間を使って運用にあたりました。地元の仲間の協力もあり、7MHz帯を中心にサービスを致しました。今回はそれぞれの地域で、インターネットで事前に周波数と時間を連絡し合い、交信実績を重ねるといことや、地元でのUHF・VHFを用いた交信等がなされて、8J3Mのコールサインがとて有名になり、小生が4月下旬から連休にかけての交信時には同じコールの別エリアのメンバーとの交信をしたと連絡する局が増加して行きました。

小生はあまりこのような記念局運用は経験が少なく、どのような形になることが望ましいのか

分からないことが多くありました。しかしながら日本医学会記念局ということで、とても好意的なアマチュア局が多く、古いAコールの局長さんや、道の駅での移動局等多数のアマチュア局との交信をすることが出来たことは感謝でありました。また久しくCWの通信をすることが無く、モールス符号の再学習では間に合わないことに気が付き、数局のみであるがCWでの通信が出来たことは、久しぶりの感激であった。小生のMARSへの誘いをして下さったJA7DF岩動隆一先生との交流の中で、モールス符号はアマチュア無線独特のものであり、さようならの意味の73を「ツーツートト トトツーツー」と心を込めて電信キーを打つとそれが相手に分かることであり、モールス通信も大切であり、2級アマチュア無線免許は最低あった方が良いとの御助言を頂いた。これが契機となり、数回実技が出来ず2アマ試験は不合格であったが、多くの諸先輩の御支援で2アマの免許をとることができました。特に朝定時通信でCWのモールス符号を打って下さる方の御支援(村上昌邦氏:JA7TL局)には今でも感謝している。

モールス符号の暗記は40歳代になってからの訓練は厳しいものがあつた。もう少し若い時代に覚えておけば、こんな苦労はしないで済んだのではと思いました。この一分50文字の通信実技試験はとても貴重な経験となり丁度25~26年前のことですが、観方を変えますと、受信も送信も言語障害を理解する脳の機能との関連が重要であり、自分の脳機能を用いての自分自身の実技演習に等しいとも思われ有意義な経験であったと思いました。

今回の合計交信局数の集計が出されて、8,700局を超えることになったが、このことは今回の8J3M日本医学会総会記念局の大切

さが日本のみならず海外でも評価されることになり、日本医師アマチュア無線連盟 MARS の歴史に新しい実績を創造したことになると思われ、この記念局に関わり御尽力を賜った MARS 各局ならびにそれらの御支援に御支援頂いた多くの支援団体、関係機関とくに近畿総合通信局の前向きな御配慮も大きかったと思

われます。

2か月間の 8J3M の運用期間の後は少し寂しさと共に QSL カードの印刷記述作業が待っていました。何とか7月中旬に JARL に送ることが出来て、この大きなイベントに参加した、2か月間の充実したハムライフを感謝しつつこのつたない感想文に替える次第です。

## 8J3M

### — 8 年前にも取得を躊躇したこの CALL SIGN —

#### JH3AEF 東條純一(大阪府)

八年も前になるのか 8J3GAJMC は、そう言えばあの頃、亡き wife に「頭の上でゴソゴソ、ゴソゴソうるさい！！」としょっちゅうお小言をくらったものだ。と言ってもお読みの皆様には理解に苦しむことだろう。実は私の shack、寝室の真上にあり、そのように建てたのだが、消防署よろしくご用があれば何時でも小梯子を駆けあがって rig の前に座れる仕掛けになっているのだ。あの時、call sign の申請に訪れた 3 の総合通信局で、「サフィックスは 5 文字まで可能になりました」との言葉に誘われて 8J3GAJMC と即決したのだった。サフィックスが5文字は当時としては非常に珍しく、注目を集め、目標の 5000 QSO も比較的容易に達成できたのだが、長すぎる call sign は当然のことながら通信には不向きと実感させられたし、決してスマートにも思えなかった。

ここ数年、あるいはもう少し以前から、字数に関係なく意味ありげな call sign は珍しくない。一方、通信の簡潔性、特にコンテストやペディ

の世界で求められる効率重視の call sign も日常的になっている。

8J3M については前年の佐賀での MARS 総会以来、次年度の医総会開催地でもあり MARS 総会開催地でもある京都の JA3ASU 狭山 om に幾度となくお願いしその取得の実現に邁進した。

8J は DX に対してはやや了解させにくく、電信では打ちづらいことも事実、しかし、日本を代表する特別な記念局の prefix であり、その一角を我々 MARS が担うことができるということは真に名誉なことだ。今後も決して安売りすることなく大切にしたいものだ。

さてその運用についての報告は、今回は残念ながら運用されなかった各位からの感想も含め非常に興味のあるところだ。ぜひ活発なご投稿を期待したいものだ。

ところで今回、私は主に 1.9MHz を運用することになった。何か重要な決まりがあった訳ではなく、各局のあまりの活発な on air ぶりに、

何となく比較的競合の少ない band に追いやられたということであろうか。競合が少ない点では DX 局を狙うのもまた一興と考えた。CQ DX の連呼も一法だが、8J3M/3 を DXCC に新規登録という目標をたてるのもこれまた楽しからずや、ということで二面狙いの運用を始めた。

ここで京都国際会議場局のお話も。あの会議場の屋上には塔屋がある。恐らく給水設備か、昇降機関係か、空調か。悠々と周りの里山を見下ろす高さだ。その上に 10m 余のポールを立て、全く折り曲げたりすることのない 1.9MHz 1/2 波長 IV を架設した。恐らく給電点は地上高 40~50m はあるだろう。このロケでこの ANT を使って真昼間の開場時間中、頻繁に CQ を出した。しかしながらなしのつぶて。あの会議場、午後 6 時で閉館すると管理者以外、総退出を命じられる。何とももったいない話だ。例えば屋根裏部屋でも一冬使わせてくれたら、、、てな具合で会場からの 1.9MHz の実績は 0 だった。自然の摂理とは厳しいものだ。

一方、私の home QTH は東大阪市、大阪市の東に接する町工場の街だ。とはいっても、私の家に隣接するお宅は大阪市、だから downtown OSAKA といっても決して間違いではない。そんな所で top band などとんでもない話。しかしそこに生活圏のあるハムなのだから最初から放り出すのは私流ではない。とりあえずは努力、努力ということで top band もこの地で頑張っている。8J3M/3 op Tojo の home からの QRV は top band から始まった。ANT は top band 用の tower drive と tower の最上部にとりつけた EH ant、ついでに、20~6m 用として 3ele Step IR ant がこじんまりと載っている。ゴチャゴチャ載っていた ANTs は綺麗さっぱり降ろしてしまった。他に 80 と 40m 用の IV があ

る。CW でのサービス運用、logging、card の発行には USBif4CW と HAMLOG の連携を利用している。

開始当初、珍しさも手伝ってかなりの pile を受けたが、二日目には呼ぶ局は激減、この band を日常的に運用する局の実数は想像していたよりかなり少ないなという印象であった。それならと東大阪市を離れての運用を計画した。top band を移動運用するなど馬鹿の骨頂に見えるに違いない(写真 1)。

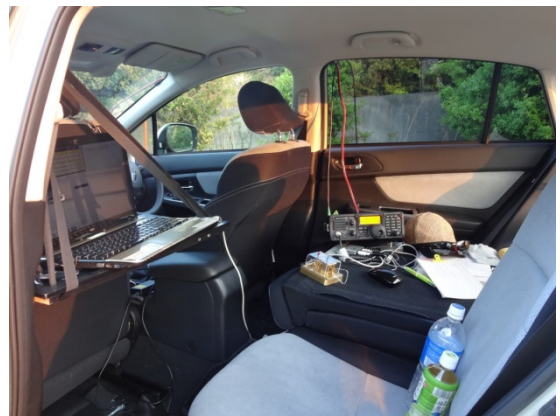


写真 1

車はスバル XV,4WD,eye sight でどこまでも先行車に追従、小さくって小回りがきき林道などで窮することもない。その上 AC 電源までであるが rig 運用には容量不足、でも私は結構気に入っている。Shack を飛び出し緑の山野に出かけるだけでも気分爽快だ。それに国外からの運用も含め経験を積むうちに自ずと自分流の on air 術というものが出来上がってきているように思える。慣れれば慣れるほど楽しくもある。当然のことながら問題は ANT をどうするかだ。移動局であろうと固定局であろうとその架設時の平易さを考えると、当然、DP 或は LW、場合によっては Vertical ということになるだろう。

DP は 1/2 λ 即ち全長約 80m、屋外ではそのスペースを確保するだけなら左程難しくもな

いであろう。ただ DP や IV の場合、その給電点と水平部をどれだけ地表から離せるかが問題だ。周知のごとく出来るだけ Dxing に効果のあるよう、発射角を低く(15 度)抑え、しかも利得を最大にするには、 $3/4 \lambda$  120m に持ち上げなければならない。利得を多少犠牲にするにしても  $1/2 \lambda$  80m high は必要なのだ。これ程の高さはアマチュアにとってはとても無理な話となってしまう。発射角、利得についてこだわらないのなら使えないことは無いのだが、、、当然、各局辛抱しながら、理想とは程遠い環境で運用しているのがこの band の実情なのだろう。ただ一つ、この理想に近づくことができるのは、規制も厳しくなくサービス精神旺盛な環境がある場合のみ、即ち解りの良い海外のホテルや建物の利用できる場合のみ、日本ではとても無理な注文だ。

さて、Vertical はどうだろうか。DP の場合高さが求められた。Vertical では一端は地上にあるのだから DP よりは扱い易いのでは。ただ、top band ともなると  $1/4 \lambda$  といえども 40m、やはりおいそれと設置できるものではない。ただその動作原理は多くの書物に示されているように、理想的 DP ant を垂直にし、給電部を中心に半分が地面下にあると理解すれば良い。電波の発射角度は理想的条件下の DP と同等に低く、便利なことに ANT 基部での放射抵抗は  $35 \sim 40 \Omega$  とされている。

この場合 ANT の性能に大きく係ってくるのが ANT を建てた大地の電気的性状(誘電率、導電率)というものだそうだ。難しい理論は良く解らないが、この電気的性状は海面が最もよく、海岸に面した土地、湿度の高い肥沃な土地の順に良く、砂漠、ゴツゴツした岩場が最も悪いとされている。電気的性状の良い場所での設

置についてはその改善手段として Radial の設置が推奨されており、理想的には 60 本も 100 本もを設置するのが常識のようだ。しかし、私の数少ない経験では、 $1/4 \lambda$  長、2 本～4 本でもその効果は絶大という感じだ。Radial についてはまた後述することにする。

160m ともなると DP も Vertical も矢張り簡単には利用できるものではない。

いろいろ試行錯誤している中で私なりに何とか使えると実感している ANT がある。

LW ? Vertical ? どちらの成分も兼ね持つ混血 ANT である。LW Ant を試行錯誤しているうちに、いつの間にかその再現性を実感し使ってきた。移動運用であっても DX まで飛んでくれた実績もある私の定番だ。

後にこの手技は AKI SPECIAL by JA5DQH Aki Nagi OM と呼ばれる ANT で、1988 年 Kingman Reef の Dx pedi で使われ好成績をあげた ANT に近似していることがわかった。



写真2

仕掛けはいたって簡単(写真2)、運用周波数から計算した  $1/4 \lambda$  長(約 40m)径 2mm の ANT 線、操出式の樹脂ポール全長 10m、たったのこれだけ。“お前、ほんまにハムか？”と言われかねない材料だ。ただし、現地に到着、

設置場所が決まれば、可及的短時間で運用を始め、運用が終了したら闇夜でも悪条件でも直ちに撤収、退去できる。このことは運用と同じくらい大事なことと云えるかも知れない。そのために馬鹿みたいな小道具が自分なりに改良、簡素化され利用されてきた。

実際この Aki Special ANT の解析では、垂直部が長いほど低い打ち上げ角度が得られ、放射抵抗も高くなるとされている。データでは垂直部で低角度(約  $30^\circ$ )の放射をし、水平部では高角度放射(約  $60^\circ$ )をするとされる。よって合成された放射角は  $40^\circ$  程度とされている。

しかし、平衡型でなく、Vertical Ant の成分の強いこの ANT がより優れた放射効率を発揮し、低い放射角で機能するためには、可能な限り良好な大地系が求められる。このために私が常に求める location は海岸近く、平野部や山間地であれば川、池、ダム周辺(写真 3)、



写真3

そして最も付加価値が高いと感じるそれ以外の条件はガードレール、またはそれに匹敵する頑丈な金属柵のあること、それも出来るだけ長い距離しっかりと敷設されていることである。これ即ち radial といってもよい(写真 4)。決して高台で見晴らしの良いところとは限らないのだ。



写真4

さて、上に揚げたような理想の現場に到着したら設営はいたって簡単。まずはポールを建てる。ANT 線をポールの先端を経由し  $1/4\lambda$  一杯に展張する。遠位端は可能な限り高いのが良い。ポールの下端近くで ANT 線を固定、G 側は大型のわにロクリップを使ってガードレールや金属柵の地金部にしっかりと固定(GARDIAL?)、あとは ANT の諸元を測定し LW に多少の cut and try を試みるのみだ。

諸元測定にはここ数年ウクライナの RigExpert 社製 AA54(国内通販にて容易に入手可)を使っている。従来使ってきたクラニシ製や MFJ 社製より電池が長持ちし、軽くて丈夫。何より SWR が graphic に表示され、現在の同調周波数が一目で把握でき、どの方向に



写真5

どの程度調整の必要があるのか一目瞭然、inductance 又は capacitance、放射抵抗値も同時に display されるのが良い。それが余程見当違いの ANT であっても、range を広くとれば直ちに実情を示してしてくれる、非常に優れたものだ。(写真 5,6,7)

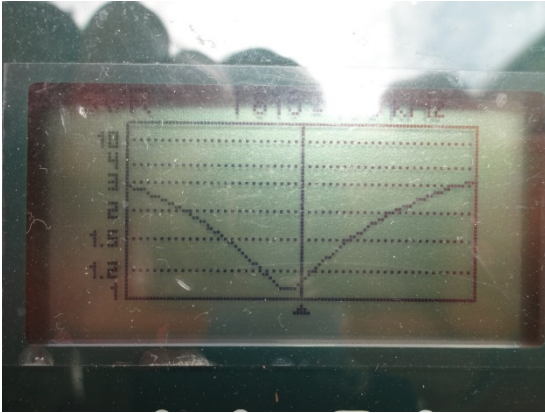


写真6



写真7

このアナライザーを使って測定した上述 AEF 改 Aki Special Ant は完璧に SWR 値も下がり、放射抵抗値もおおよそ 50 Ω 近くに近づけることができている。ただこの放射抵抗値に関しては理論的には 35 Ω 前後が相当なのに、何故都合の良い 50 Ω 近辺に近づくのかは良く解らない。そのような事情から今回の移動運用では

インピーダンスマッチングのための装置を使ったことはなかった。

参考文献 John Devoldere ON4UN 著  
Antennas and Techniques For Low-Band DXing

日本語訳版 月刊ファイブナイン社  
私はいずれこの著作の原版を入手したいと考えている。

8J3M/2,3,4,5 op Tojo の交信実績

交信総数 421 (CW 241, PHONE 180)

(1.9:216, 3.5:1, 7:52, 14:9,

18:14, 21:74, 24:13, 28:42)

交信 entities 100 超えと思っていたが整理したら 98 しかありません???

4L, 4X, 5W, 5Z, 9A, 9M2, 9M6, A4, A6, BV, BY, C21, CE, CN, CO, CT, CX, DJ, DU, E7, EA, EA8, EI, ES, EU, EX, F, FK, FW, G, GI, GW, HA, HB9, HK, HL, HS, I, JA, JD1o, JT, JW, K, KH2, KH6, KH0, KL7, LA, LU, LX, LY, LZ, MT0, OD, OE, OH, OK, OM, ON, OZ, PA, PJ2, PJ4, PY, S5, SM, SP, SV, T71, T88, TA, TI2, UA4, UA0, UA2, UK8, UP, UT, V6, V7, V8, VE, VK, VK9, VR2, XE, XU, YB, YL, YN, YO, YT, YV, Z3, ZC4, ZL, ZP, ZS,

どうしても拾ってもらえなかった局

TN/CT1FJZ 14 , ZF2AH 24 , JY9FC ,  
TK90IARU 24 , 9J2HN 14 , 9H5BJ 14 ,  
TY2CD 14 , SU9IG 18 , TL3DB? 14



# 8J3M/7(3) 運用記

～『ふくしま』を意識して～

## 福島県立医科大学 心臓血管外科学講座

### JP7FSO 高瀬 信弥(福島県)

8J3M/x の運用の機会を与えていただき、わたしのハム・ライフにおいて歴史的なイベントとなりました。まずはじめに MARS 各局のご尽力で、貴重な経験をさせていただいたことに深く感謝いたします。

この記念局運用については、日頃(希に)書き込んでいるブログに書き込んでいました。また、記念局運用中は MARS メーリングリストも活発に書き込みがありましたので、それらから抜粋、修正したものを掲載させていただきます。

私 JP7FSO は東日本大震災により被災＋原子力発電所事故のため今も難しい時間を過ごしている福島県の北部、福島市の福島県立医科大学に勤務しております。アマチュア無線の免許は小学生の頃から取りたかったのですができずにいましたが、この震災をきっかけに 2012 年 10 月に免許取得後開局しました。MARS に加入させていただいたのもその直後になります。従ってアマのアマ。超初心者です。しかし、8J3M のメンバーによる運用が可能と知ったときに、この運用をすることで僅かながらでも福島県に関心を持っていただけたらと思い、運用時間のやりくりが大変そうではあったのですがやらせていただきました。運用は福島県およびその近郊で、私の出張先あるいは通過地になりました。そのため、今もメディアで取り上

げられるような『避難指示解除準備区域』『居住制限区域』、あるいは私のような現地非住居者にとっては通過だけ可能な『帰還困難区域』から電波を出すことを少なからず意識しての運用としました。

以下は、その中の『居住制限区域』である、『飯館(いいたて)村』と最近指示区域解除になった『川内(かわうち)村』(最終日)の運用について記載します。

また、DX のために QRZ.com で告知するように仰せつかりましたので、つたない英語力＋当施設のアメリカ人教授 Kenith Nollet 先生のご協力いただきながら、サイトを作りました。

加えて、今回の運用形態は従来の記念局運用とは異なっており、巷ではいろいろ意見がありました。この点については自分のブログで解説(?)をしていましたので、次回の記念局運用の際に参考にされてください。

まずは、移動運用記からはじめます。

#### ○移動運用 福島県相馬郡飯館村から

2015 年 3 月 26 日 は出張先からの帰り道。福島県相馬郡飯館村 JCG 07010(B) の山道を走りながらの運用でした。

時々このスタイルで QSO していましたが、あまり安全なやり方ではないですね。

2015-03-01現在の避難情報

飯館村

県外避難者数

	都道府県名	避難人数	避難戸数
1	北海道	37	17
2	青森県	3	1
3	岩手県	3	1
4	宮城県	52	35
5	秋田県	5	2
6	山形県	32	11
7	茨城県	16	11
8	栃木県	42	25
9	群馬県	9	5
10	埼玉県	74	39
11	千葉県	25	22
12	東京都	56	43
13	神奈川県	64	40
14	新潟県	20	7
15	山梨県	2	2
16	長野県	4	4
17	岐阜県	1	1
18	静岡県	11	5
19	三重県	7	2
20	京都府	4	1
21	大阪府	2	2
22	岡山県	4	2
23	広島県	6	2
24	徳島県	1	1
25	佐賀県	1	1
26	沖縄県	2	2
27	国外	4	4
	県外計	487	288

不明	2	2
----	---	---

県内避難者数

	自治体名	避難人数	避難戸数
1	福島市	3,861	1,652
2	会津若松市	22	8
3	郡山市	55	41
4	いわき市	15	14
5	白河市	1	1
6	須賀川市	6	3
7	喜多方市	15	5
8	相馬市	421	199
9	二本松市	90	39
10	田村市	16	7
11	南相馬市	395	203
12	伊達市	596	296
13	本宮市	10	6
14	桑折町	6	3
15	国見町	71	35
16	川俣町	533	207
17	大玉村	8	3
18	鏡石町	7	4
19	天栄村	1	1
20	下郷町	2	2
21	南会津町	1	1
22	北塩原村	1	1
23	猪苗代町	9	3
24	会津美里町	1	1
25	西郷村	8	2
26	中島村	6	4
27	矢吹町	2	2
28	玉川村	1	1
29	三春町	5	2
30	小野町	3	3
31	広野町	1	1
32	新地町	8	5
	県内小計	6,177	2,755

飯館村内	57	53
------	----	----

県内合計	6,234	2,808
------	-------	-------

全合計	6,723	3,098
-----	-------	-------

県内施設別避難者数

仮設住宅

	施設名	避難人数	避難戸数
1	伊達東仮設住宅	146	91
2	旧飯野小仮設住宅	67	31
3	旧明治小仮設住宅	50	25
4	国見・大木戸仮設住宅	17	8
5	国見・上野台仮設住宅	43	22
6	松川仮設第一住宅	185	108
7	松川仮設第二住宅	183	99
8	旧松川小仮設住宅	61	30
9	相馬市大野台6仮設住宅	300	150
	仮設合計	1,052	564

各施設

	施設名	避難人数	避難戸数
1	公的宿舎	417	163
2	借上住宅	3,095	1,415
3	いいたてホーム	43	43
	合計	3,555	1,621

施設合計	4,607	2,185
------	-------	-------

親族宅等

	避難人数	避難戸数
親族宅・老人ホーム・病院等	1,613	613

未避難

	未避難人数	未避難戸数
未避難	14	10

交通量が少ないからできる技です。途中から QRM があり、弱い信号の局は取りにくかったです。逆に、移動しながらの QSO でしたので各局にはご迷惑をおかけしました。

飯舘村はご存じのように、福島第一原子力発電所の事故の影響で全村避難対象地になっています。おおぜいの村民が、3年を経過した今も福島市や周辺自治体の仮設住宅や借り上げ住宅で避難生活をおくっています。日中は帰村でき、通行も自由ですが、泊まることはできません。夜になると、家には灯りがつきません。

そんな村が今の日本に存在し、私のすぐ近くにあることを認識し、忘れないようにとの思いで、通過するときにはあえて電波を出しての現状を知ってもらっています。

震災当時の飯舘村を振り返ると、われわれの施設でさえ『なぜ飯舘村の線量が高いんだ?』とかなり疑問に思っていました。

村民が苦悩している姿。村民に放射能による人体への影響を誠心誠意説明していた同朋たちの姿が今も忘れられません。情報が足りませんでした。情報が来ませんでした。

福島県は現在も将来も、県民の健康を守り、長寿県を目指すとともに、低線量放射線が健康に及ぼす影響を地道に調査研究しています。

本日の 8J3M/7 の運用中は上記の点については一切触れておりません。それは 8J3M/7 の本来の主旨とは異なるものと考えたからです。しかし、電波の向こうのみなさんは、ちゃんと分かってくれているものと信じています。

今回の医学会総会2015関西 では『20の柱』としてテーマ別にディスカッションが計画さ

れています。そのなかの『柱18』に『震災から学ぶ』が企画されています。

日本は天災の多い国です。全国の医療従事者は『すぐそこにある震災』を十分認識して普段からの準備をしておく必要があります。『明日は我が身』です。

さて、今日も沢山の QSO 有り難うございました。

うまく Pick-up できなかったことは本当に済みませんでした。

また、福島県および近郊の市町村から出たいと思いますので、その時にはまたお呼び下さい。

何度お呼びいただいても結構です。大歓迎です。

よろしく願いいたします。

73

## ○日本医学会学会場からの公開運用(ブログより)

2015年4月11日土曜日 MARSの年次総会に出席。当初欠席の予定でしたが、東條 OM から『こんな機会は滅多にない。来ないと後悔する。(来なさい!! :自分勝手の意識)』とメールがあり、京都に新幹線で向かいました。総会に参加でき、MARS 各局と2年ぶりにお会いできて楽しい時間を過ごさせていただきました。

加えて、『来年の総会は福島で。どう?』と東條 OM から。こんなまだよく知らない私がやれるわけがないと思いましたが、押し切られました。言うことで、来年2016年4月に福島県福島市で総会を主催させていただきます。よろしく願いいたします。

2015年4月12日日曜日 晴れ～薄曇り 京都市西京区(220103)

京都国際会議場6F の踊り場 特設公開会場(?)から 8J3M/3 を運用させていただきました。

アンテナは3.5～28MHz は逆 L ロングワイヤー+ATU(AH-4)、1.9MHzダイポール。Rig IC7200M です。前々日より JH3AEF (MARS 会員)局が設営して下さいました。

朝 8 時の開場と共に設置場所に移動して、設備の確認と撮影。その後 8 時 30 分頃から個人コールでテストし、ある程度飛んでいることを確認。9時頃から 8J3M/3 で交信開始となりました。新潟県のフレンド局が交信後クラスターに UP。とたんにパイルとなりました。

30 分ほどオペレートして、JO3RUL (MARS 会員)局に交代。午前中は RUL 局がオペレートしました。わたしは、その間きちんと学会参加していました。

午後 1 時頃から18MHzがすこし国内 Open しましたので数局と QRV し14時頃タイムアップ。

15時の新幹線に飛び乗り Home に戻りました。

尚、デジタルモードは、RIG の設定ができず、短時間で『無理』と諦めて、SSB のみで Operate しました。ごめんなさい。

## 〇5月15日 特別局 最終日(MARS メーリングリストから抜粋)

8J3M が開始になり 1 ヶ月ほど経ってから各運用局の QSO 数がメーリングリストに時々 Update されはじめました。この QSO 数については当初気にしないようにしたのですが、東條

先生や各局が頻回に QSO 数を更新するようになさってからは、JI1VAH 天谷先生や JF3JON 田中先生に刺激されてしまいました。東條先生の術中にはまった感じです。でも感謝しております。

最終日はタイミング良く福島県の海岸線沿い(浜通り)相馬市への出張でした。早朝7MHzで運用して、『移動しますのでよろしく』コールをしておきました。

仕事が終わってから浜通り最北の新地町から QRV。45 分程度で終了して磐越道を南下。

原発の煙突(第 2 原発)を横目に見ながら大熊町で下りました。

車の移動中は JP7FSO でコールしていました。浪江町、双葉町、大熊町など帰宅困難地域はニーズが高いと見えてかなり呼ばれましたが、適当に切り上げて、内陸の川内村(最近、帰村が可能となった村)に移動しました。

川内村は 600~1000m 程度の山が沢山あり、震災以前しばしばトレイルラン(山を走るランニングのスタイル)をしに訪れていました。帰村可能となった後には是非行ってみなければと思っていました。それもあつての選択でした。電波を出す前に腹ごしらえのつもりで村内のそば屋さんに行きましたが、さすがに閉店状態でした。村は四方を山に囲まれています。適当な場所を探すのに時間がかかりましたが、18時過ぎから最終の QRV に取りかかりました。

最初の数局は QRM の中、のんびりモードで CQ を出しまくっていましたが、『クラスターに上げます』とのコールがあり、その後は 2 時間以上パイルとなりました。呼ばれて分かることも沢山経験でき、今後の運用に役立ちそうです。JA1KXT 局の変調は他をぶち抜いての入感

でした。凄かったですね～。

○ブログでの総括

3月15日から5月14日までの運用期間でしたが、先日終了しました。

実に8,500QSOを超える運用でした。

われわれ日本アマチュア無線連盟の歴代運用数をみてもダントツです。

みなさんのご協力で沢山のQSOができ、本当に感謝いたします。

日本医師アマチュア無線連盟(MARS)でも正式な結果が報告されると思います。

今回の運用モード別 QSO 数は

- SSB 1,515
- RTTY 251
- FM 45
- CW 6

の結果でした。

CW がもっとできていれば、さらにアップしたとおもいますが。今後は CW に力を入れたいと思います。

○周波数別交信状況

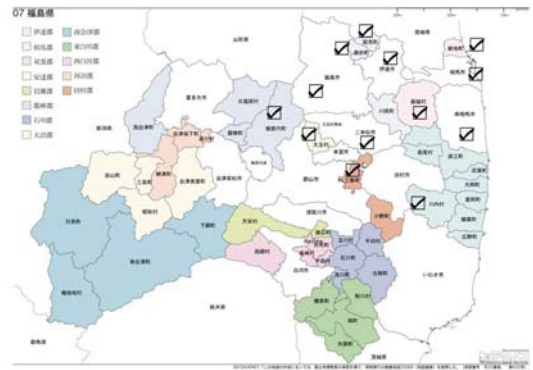
下記の表のごとくでした。

エリア別交信件数 (全交信局数は 1,301局)												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	φ	DX	計
1.9												
3.5	29	11	12	10	3	1	13	5	3	2		89
7	455	247	237	78	41	46	175	93	43	82	9	1,506
10	10	3	10	6	1	3	1	3			1	38
14						1	1					2
18	6	20	14	17	5	34	5	6	2	3	1	113
21	4					4	1	1			8	18
24						1						1
28												
50												
144								35				35
430								15				15
1200												
2400												
5600												
SAT												
計	504	281	273	111	50	90	246	108	48	87	19	1,817

○移動運用地

下記の福島県内+山形県米沢市、仙台市(宮城県南含む)

および医学会総会の京都市右京区でした。



どの移動地でも、沢山お呼びいただきました。

最終日は個人的な興味もあり、相馬市=>新地町=>(磐越道南下しながら)=>南相馬市=>浪江町=>双葉町=>大熊町で下りて=>川内村と移動しました。

最後の最後は、川内村からのオンエアでしたが、実に200を超える局からお呼びいただきほんとうにありがとうございました。

さて、この記念局は4年に一度の医学会総会に合わせてわれわれ MARS が運用するのです。次回は2019年。東京オリンピックの前年になります。その頃、福島はどうなっているでしょうか？

今後とも、日本医師マチュア無線連盟 MARS および JP7F50 をよろしく願いいたします。(ブログからの記載はおわり)

当初よりこの記念局の Operator が医師であることは完全に認知されていたので、節度のあ

る対応を心がけました。1QSO 当たりの交信時間は長くなりました。その分喋る量も多くなるので喉が大変です。運用当初は 45 分程度で声が枯れてしまいましたが、今回は平気でした。声のトーン、抑揚のかけ方、丁寧を損なわないように単語数を少なく(矛盾です)はまだまだ改善の余地があるのですが、運用テクニックを考えることが多かったことは貴重でした。

どっぷり 8J3M/n に浸かった 2 ヶ月でした。おかげで個人コールは進みませんでしたけど・・・いろいろ貴重な体験ができて MARS に感謝です。運用終了後数日(数週)は気が抜けたような虚脱感さえ感じていました。

記念局運用という特別な機会を与えていただき、本当にありがとうございます。

HAM2年目、若輩の私としては本当に貴重な体験でした。東條 OM をはじめ、各 MARS-OM にあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### ○8J3M/n on QRZ.com 告知サイト画面

現在もサイトは閲覧可能です。

<http://www.qrz.com> でアクセスして、『8j3m』で検索すれば見るすることができます。

## 8J3M

● Japan

the Event Station for the 29th General Assembly of Japanese Medical Congress 2015 Kansai

Kyoto  
Japan

QSL: Bureau and Direct (via JH3AEF)

Email: Use mouse to view..

Page managed by JP7F50 Lookups: 1099

Label

Biography

Detail

Logbook

Log a NEW contact with 8J3M...

## 8J3M/n

Now the operation is ended!

Thank you for the contacts over 8700 QSOs.

See you again in 2019!

8J3M/n is the event station for the 29<sup>th</sup> General Assembly of Japanese Medical Congress 2015 Kansai.



## Outline:

The general assembly has been held once every four years since 1902 organized by the Japanese Association of Medical Sciences (JAMS). Previous assembly was modified unfortunately because in 2011, the Great East Japan Earthquake hit our country and Japan was damaged by terrific disaster and now going on. This year 2015, it is held as regular fashion from April 11 to 13 in Kyoto, JAPAN. More than 20,000 physicians from all over Japan participate at this assembly. This is the biggest medical meeting in Japan and this is a regular assembly after 8 years.

8J3M/n is so-called "special event call sign" and issued for only 2 months from March 15 to May 14 around the assembly. This station is operated by the members of the Medical Amateur Radio Society of JAPAN (MARS). All members are physician specialists in Japan who are licensed amateur radio operators domestically and internationally. "n" is call district in Japan, 0 through 9.

## The purposes of this station:

1. To announce the 29<sup>th</sup> General Assembly of Japanese Medical Congress 2015 Kansai to the people in Japan as well as in the other countries. As the result, lets it know to the people all over the world that JAMS and medical specialists would provide the opportunity to promote their health.
2. To inform of our activity of MARS through amateur radio operation, subsequently.
3. To provide the special points for "MARS Award II" ( which is described in Japanese. sorry!!) in addition.

## Operators:

All are members of MARS (the Medical Amateur Radio Society of JAPAN).

JA1KXT NOBUO AIDA

JF1SXY FUYUKI OGATA

JI1VAH TATSUO AMAGAI

JK1AIN YUKINOBU NAKAMURA

JL1LRJ MASAO ANZAI

JA3ASU NOBUNORI SAYAMA

JH3AEF JUNICHI TOJO

JH3TCC KATSUYUKI IEDA

JF3JON KENJI TANAKA

JF3MTM TOSHIYA SHIBATA

JO3RUL TOMOMI TABATA

JA7AOM TADATO OIKAWA

JP7FSO SHINYA TAKASE

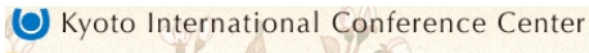
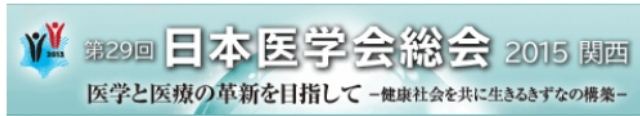
JE9RWF YOSHIKAZU IWAHORI

## QSL information:

**QSL card will be sent via the bureau by operators.**

For further details about this site, please contact page manager JP7FSO.

About MARS in Japanese



6195789 Last modified: 2015-07-16 00:23:25, 6604 bytes

○8J3M/n 同時複数運用に関して(ブログからの抜粋)

最近沢山の記念局が複数同時運用されています。

記念局によっては申請した移動用のトランシーバーを持ち回りで使用する場合もあるようですが、

8J3M/n (n=1, 3, 7, 9 本日現在)のコールサインで出ている局は、8J3Mの申請許可済み局の移動局として、それぞれのオペレーターが移動用のトランシーバーを申請した上で運用しています。

その結果、移動する局として複数存在しています。

同時に運用しても規則上は 問題ない と思われます。

また、同じエリア内でも複数運用する場合もあり得ます。

上記の運用形態は近畿総合通信局に確認の上、許可を得て行っております。

混乱を避けるため、同じエリア内での同じモードでの運用には気をつけていますが、あるいは同じエリア内で同じモードで複数局が出る可能性はあります。



アクセスして頂ける局にも、混乱を与えてしま  
うかもしれませんが、前述した内容ですので、  
御理解ください。

できるだけ JCC/JCG ナンバーおよびオペ  
レーターをコールするようにしていますので、  
Login される場合には、運用地とオペレーター  
名(あるいは認識出るような個人コール)を記載  
して頂けると、アワード申請の時には誤解が生  
じないものと予想されます。

SSB の場合には、オペレーターや運用地を  
告知すると思いますのであまり問題は無いと思  
います。

CW の場合には、JCC/JCG を何度か送信  
すると思いますので、これにより識別をお願い  
いたします。

なるべく沢山の局と QSO をしたいと考えてお  
りますので、御理解を頂ければ幸いです。

よろしくお願いいいたします。

8J3M/7 by オペレーター JP7FSO

●2015 年 4 月 7 日 追加記載

その後やはり上記運用はおかしいのではな  
いかとのコメントをいただきました。

過去の非公式な Q&A では 1 コールサイン、  
1 運用という記載があるためです。

これは個人局の場合には考えられることでは  
ありますが、社団局のような複数運用者がいるコールサ  
インでは複数同時運用はあり得ることとの見解  
です。

コメントについて近畿総合通信局 陸上第三  
課 アマチュア無線担当者に私が直接電話を  
して再度確認しました。

以下はコメントに対する私の返答という形式  
でお読み下さい。

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
コメント有り難うございます。

お教えいただいた掲載記事は私も確認いた  
しましたが、あくまでも Q&A サイトの掲載で、信  
びよう性についてはよくわかりません。

以前から書き込みしておりますように、社団  
局の場合は、複数の運用者がおり、その複数  
の運用者がそれぞれのトランシーバーを登録し  
て複数個所から同時に移動運用する形式は当  
然想定されます。

規定では、これらを制限する文言はないとい  
うのが近畿総合通信局 陸上第三課 アマチュ  
ア無線担当者からの回答でした。

もちろん 8J3M 局どうしは更新成立にはなら  
ず、ありえない通信となります。これも明言され  
ておりました。

複数の 8J3M/n が同一バンドに同一モード  
で運用しても、違反ではない。と明言されてお  
ります。

しかし、実際の QSO では誤解を招く可能性  
が大きいので、少なくとも 8J3M/n では、同一  
バンドの同一モードでの運用は行わないよう  
にしましょうと、連絡を取り合いながら運用して  
いる次第です。

ネットにはいろいろ書かれていますが、2015  
年現在では近畿総合通信局の正式な見解が  
上記内容になります。

わたくし自ら 4 月 7 日午前 11 時 40 分ごろ  
確認いたしました。

今後とも 8J3M をよろしくお願いいいたします。  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

なかなか良いたとえが見つからないのです

が、

例えば(個人的な解釈方法)

DX Peditonなどで、同じコールサインで同時に複数の異なるバンドで運用したり、同じバンドでも複数モードで運用する場合。

上記の運用形態が、地理的に複数エリアに分散して運用しているような状況(島くたとえば日本)の北側、南側、西側、東側など複数の場

所)。

上記の例は、コールサインは1つですが、スローク“/”が付く付かないにかかわらず考えられる、実際に行われている運用形態ですよ。

そう考えると、問題はないと思います。

そんな感じかなと勝手に思っています。あくまでも個人的な意見です。

## 2016年第40回 MARS 総会について

本文中にも記載しましたが、次回 MARS 総会は福島県福島市で開催いたします。

開催日;2016年4月23日(土)、24日(日)

場所;福島県福島市 コラッセ福島(会場変更の可能性あり)

時間;通常と同じ時間帯と考えていますが未定

内容;

1. 総会

2. 講演

(福島にゆかりのある題目。東日本大震災関連。放射能被曝医療などを予定しています。)

3. 懇親会

4月24日 日曜日 イクスカージョン

(内容未定;現在、関係各所に交渉中。できれば原子力発電所への視察ができれば良いが……)

交通アクセス;福島市50km圏内には飛行場がありません。

最寄りの飛行場は、福島空港(須賀川市)あるいは仙台空港になります。

いずれの飛行場からも福島市へのアクセスは公共機関を使用してもやや不便です。

新幹線が一番便利かと思えます。

大阪以西の方々は、羽田空港、東京から新幹線がよいでしょうか。

ご検討ください。

宿泊は、会場近郊のホテルがありますが、結構混んでいます。

郊外には、飯坂温泉、ちょっと遠くに土湯温泉、高湯温泉があります。しかし、懇親会の後に移動するのはちょっと不便です。

現時点では、この程度のインフォメーションとなります。年が明けないうちに再度告知したいと思います。

遠方ではありますが、会員皆様の参加をお待ちしています。

# 8J3M/1 JCC1402 QRV

JI1VAH 天谷 龍夫(茨城県)

第29回医学会総会の記念局オペレーター募集の話聞いたのは、1月の早朝のMDネットが最初でした。全国同時/nでQRVになるので、参加希望局は、移動で使えるリグの技適番号を知らせて欲しいということでした。当局は、移動用に50WのFT857 が車に積んであり、このリグの技適番号を申請することにしました。後日、従事者免許番号も必要になり、1月30日に従免番号も申告しました。この時点で、名乗り出た運用希望者は6名でした。最初は、8J3Mは6ヶ月間くらいの運用期間であると聞いていたので、のんびり運用できれば、と思っていました。実際に免許がおける時になって免許は2ヶ月と聞かされ、あまり交信数は伸ばせないと感じました。QSLカードを作る段階になり、10,000枚注文したとのこと、このあたりから現実としての8J3M運用のイメージが湧いてきました。JH3AEF 曰く、「5,000枚も10,000枚も値段は一緒、9,000局やるとしても、6局でこなせば、一人1,500局、期間は60日あるので、1日25局やれば、大丈夫、簡単、簡単」と。その後、運用希望局は増え、最終的には、12局のMARS会員による8J3Mの運用になりました。

まずは、シャックの変更から始まりました。コンテストで使っている100W機のFT897からアンテナをはずし、片付けようとしたのですが、FT857は、FT897の内蔵電源とアンテナチューナーがそのまま使えることが分かり、電源とチューナーの端子をそのままFT897よりもらい接続しました。また、ログ用に、中古のノートパソコンを1台購入し、8J3Mは、いままでのログとは

まったく別の管理で、001番からはじまるようにしました。



8J3M/1 医院3階にあるシャック

アンテナは、主に国内コンテストで使用している屋上のGPを中心に使うことにしました。シャックは医院の3階にありますので、診察時間以外は常時QRVできます。3月8日に、8J3Mの局免許証のコピーを送付してもらい、証票も届きました。さらに、QSLカードのデザインも決まり、いよいよ3月15日を待つのみになりました。

前日の3月14日は、オールJA0コンテストが、23時59分までであり、CWバンドはにぎわっていました。24時となり、いよいよ3月15日です。コンテストの終了と同時に、バンドも静かになりました。第一声は、3.5のCWからでした。3月15日0005JSTにCQを出し、早速0006JSTにコールしてきたのは、JA0DVE局でした。先ほどまでコンテストに参加していた局かもしれません。その後0034JSTにはJクラスターに載ったようで、深夜にもかかわらず、結構なペースで呼ばれました。午前1時ころまでやって30局ほど交

信出来ました。朝は、6時過ぎから、7MHzのCWにQRVしました。日曜日の朝でしたので、7MHzはあっという間にパイル状態となり、QRVの周波数は、連続のビート音にしか取れませんでした。もともとFT857は移動用のリグなので、混信除去装置は、あまり期待できませんでした。ちょっと周波数のずれた局は聞こえるので、必死に聞こえる局を拾い続けました。それでも50局ほど応答すると、一応に静かになって、QRZ?でコールが切れたのを機にQRTしました。適度な局数で呼んでくれると能率もいいのですが、猛パイルは逆に効率が悪くなります。耳も疲れたので、その後は18MHzでのんびりCQを出しました。電波には国境はありませんから、さっそくHLから2局コールされました。午後にもう一度7MHzに出て、再びパイル状態となり、夜は、3.5MHzにもどりました。3.5MHzでは、JF3JON、JH3AEF、JA1KXT、JF3MTMからもコールされ、初日は、148 QSOで、一日25局の予定をはるかに越え、たくさん貯金をすることができました。

3月16日も、7MHzと3.5MHzにQRVしましたが、3.5で北米からもコールされました。運用は、仕事前の早朝6時台と昼休みに7MHz、夜は、主に3.5MHzとしました。



屋上の3.5MHz、7MHz用のGPアンテナ

国内で、HFのCWでQRVできる局は、どのくらいいるのだろうと考えました。コンテストなどの経験から、MAXでCW運用局は500局位はいるはず、よって、3.5、7MHz、両方で交信すれば、1,000局くらいは何とかいけるのではないかと考えていました。その後、順調に局数を伸ばし、4月4日には、目標であった1,000局に到達しました。いつかは頭打ちになると予想していたものの、実際に1,000局を超えると、ローバンドでの効率は明らかに落ちてきました。4月に入り、ハイバンドでの運用の必要性を感じました。28MHzはあまり聞こえませんでしたので、21MHzでの運用を開始することにしました。当初は国内を意識してGPで運用していましたが、50Wでも、DX局から呼ばれることが多く、アンテナも、GPから4エレSTEPP・IRに切り替えました。さすがに、フルサイズの八木はよく飛ぶようで、ヨーロッパ方面からもたくさん呼ばれました。

CW運用は、599BKスタイルになるので、情報が発信しにくく、やはり8J3Mの英語版インフォメーションの必要性を強く感じました。MLで提案したところ、QRZcomがいいのではないかとということで、大変な作業をJP7FSOにお願いすることになりました。わずか数日で、素晴らしい8J3MのQRZcom上のページができました。JP7FSO局には本当に感謝です。毎日そのページを見るのが楽しみになりました。フラッグカウンターも付いていたので、アクセスしてきた局の国籍が分かります。21MHzでQRVした直後に、アクセスがどっと増え、交信してきた国の国旗が新たに加わります。一瞬で世界とつながっていることを実感でき、グローバルな無線の楽しみを増してくれました。



ハイバンドで活躍した4エレ SteppIR

運用から1ヶ月が経った4月15日、JH3AEFから「各局、交信数を申告しましょう」という、衝撃の提案がありました。それまであまり局数は意識しないでやってきましたが、急に各局の交信数も気になり始めました。また、JH3AEF局は現在、DX102、83 エンティティであることを知り、記念局運用にはDX狙いの楽しみもあることに初めて気がつきました。当局もDXのQSOを数えたところ、CQを出して呼んできたDXは80局、25 エンティティあることが分かり、それからはニューを増やすべく、ニューエンティティが聞こえていたら、コールするほうに回りました。8J3Mのコールは、聴き取りにくいコールらしく、何度かコールしないと正確にコピーしてもらえないこともありました。JH3AEFは着々とDXCCに向かっていますので、せめてこちらはWAC(6大大陸交信)は完成させたいと思っていました。北米、南米、オセアニア、ヨーロッパ、アジアはすでに交信していましたが、

ネックはアフリカでした。ZS6のコールが21MHzでログインされていましたが、その時のアンテナ方向は、330度方向で、南アフリカからの電波とは考えにくく、しかもQRZ.comにコールが載っていませんでした。ログから削除し、あらためてアフリカ探しを始めました。パイルになると、50Wで太刀打ちするのは厳しいところです。そこで、パイルになる前の局を探していました。5月4日、18MHzCWバンドの上のほう、あまりDXでは使わない周波数で、SU9エジプトのCQを見つけました。幸いにパイルもなく、8J3M/1をしっかりと拾ってもらえました。とにかくWACを完成することができました。そこまで、総交信局数1,606 DX101 40 エンティティで、残り10日です。

いよいよ5月14日、最終日です。朝、診療前に7MHzに出て、一日仕事をし、夕食後3.5MHzCWにQRVしました。JF1SXY、JA1KXT、JH3TCC からコールされ、各局と最後の挨拶をしました。このときの73 TU は心にしみました。その後、21MHzにQSYし、5月14日23時50分、UN7JZとの交信をもって、8J3M/1 JCC1402のすべての交信を終了しました。3月15日以来、CQを出しスタンバイした時のなんともいえない緊張感、呼んできた局のコールサインを必死に聞き取る時の集中力、QRVしている時はいつも、脳の中にはたっくさんのドーパミンが出ていたものと思われます。それが一種の快感となって、心地よく感じていたのかも知れません。時計の針が24時を回り、お祭りのあとに感じるような虚脱感とともに感じた充実感は何ものにも換えがたいものでした。コールしてくれた世界中の局に感謝です。改めて無線の面白さを感じさせてくれた2ヶ月間でした。

8J3M/1日立市 における交信数は、

### CW

3.5MHz	345	DX	1
7MHz	1130	DX	2
10MHz	31	DX	1
14MHz	16	DX	16
18MHz	10	DX	8
21MHz	127	DX	97
28MHz	3	DX	3
50MHz	1	DX	1
	計 1,663 局	DX	129 局

### SSB

3.5MHz	12 (朝のMDネット)
7MHz	11 (朝のMDネット)
	計 23 局

### FM

144MHz 14 局 (ローカル局)

よって 最終総交信数 1,700 局 (DX129 局、57 エンティティ)でした。

8J3M開局に尽力されたJA3ASU JH3AEF JA7AOM 各OMはじめ、すばらしいQSLカードを提供されたJA1KXT、QRZcomを立ち上げられたJP7FSO各局 また、いろいろな形で8J3M運用にご協力いただいたMARS各局に心より感謝いたします。

## 少年時代に戻れて良かった

### JF3JON 田中 憲児(和歌山県)

こんなに熱心に交信したのはいったい何十年ぶりだろうか?と思ったが、ふと14年前に1日だけ必死で QSO したのを思い出した。アンテナ工事で両手親指を負傷して、6週間入院して退院した翌日の和歌山コンテスト、K-wire を抜いてたった2日後の動かない指で朝から晩まで 7MHzCW に出続けたら優勝した。他にやることがなければ、俺でもコンテストで優勝できるぞ!という経験でした。

今回はそれ以来の、シャックにいる間は必至のパッチでの QSO でした。すごく楽しく参加させていただきました。火曜日の午後と金曜日がメインで、大半は 7MHzSSB でしたが、いろんなバンドで phone と CW で交信することができました。Facebook で告知したところ、友達の友

達から友達申請があり、9エリアからモービルで移動ってきて 430MHz でのコンタクトを求めてくださったり、待合室に CQ 誌を置いているので、いつも診察時にアマチュア無線の話だけしていた患者さんが、先生ご苦労様ですと言いながらお声掛けくださってファースト QSO できたのが印象的でした。あれっ、でもまだ JF3JON では交信してなかったっけ。

「少年時代に戻れて良かった。」小中学生のハムに恋焦がれていた時代に戻ることができました。

8J3M の運用に際してご尽力いただきました先生方、本当にありがとうございました。

4年後の名古屋での医学会総会に際し、8J2M/3 で、また少年時代に戻れますように!

# 8J3M の運用に参加して

JH3TCC 家田 勝幸(和歌山県)

最近、外国の局でも special event station としてたくさん局が出ています。やたらと長いコールサインで聞き取るのに難儀するものも多いです。日本でも CQ 誌など見ると実にたくさんの特別局が記載されています。特別局は長いコールサインが多いですが、そんな中で8J3M はかなりスマートです。東條先生、狭山先生の電管と上手に交渉してもらったたまものかと思います。前回の1台のリグしか登録されなかったのと比べて今回の8J3M/nの各移動局毎に1台登録されたので運用するのに大変便利で、参加することが容易でした。これも東條先生、狭山先生の努力のたまものかと思います。

参加の各局はかなりアクティブに CQ を出しておられ、また移動運用までこなしておられるのには感心しました。当局は 10 メガ帯が一番静かで、ほとんどノイズが無いバンドであるため、10 メガ帯だけしか CQ を出せませんでした。特に 7 メガ帯はノイズがひどく少し弱い局はノイズに隠れて拾えないことがあるので CQ は出せずじまいでした。周りは田んぼしかないのに7メガのノイズは結構きついです。朝のロールコールでもノイズは結構あります。アンテナを高くしてからは半減しましたが、それでも S5位です。天井裏のダイポールの時は S9(～オーバー)でかなり苦しかったです。なぜか10メガから上はノイズが少ないです。ノイズの発生源は近くの電柱にある変圧器くらいしか考えられません。

最初の頃は CQ を出すと、ものすごいパイル

になり、ほとんどコールサインをとることが出来ず、難渋しました。ペディション局を呼ぶときはしつこくしつこくコールしていましたが、自分がパイルアップを受けるとなかなか相手のコールがとれずに困りましたが、逆にどんなタイミングでコールしてくる局がとりやすいかよくわかって実に良い経験になりました。交信が終わってすぐに呼んでくる局はほとんど聞き取れず、かなり遅れて呼んで来る局がとりやすく、したがってタイミングをすこしずつずらしてコールしたらとってもらえることがわかりました。普段の QSO でパイルを受けることが無いので、当局にとっては今回の経験は大変有意義でした。強力な局はどのタイミングでも良く聞き取れるので、当然のことながら、ペディション局を呼ぶときは100ワットではキロワット級には負けると言うことも良くわかりました。3ヶ月という比較的短期間でしたが、徐々にパイルアップも無くなり、次第に応答するよりも CQ をだしている時間が長くなってきました。当局が電波を出す時間帯がほとんど同じで、聞いている局も一通り終わってしまった感じでした。最終的にはトータルでは659局でした。DX局で呼ばれたのは、はごく近場の HL、DU、UA9、UA0、KH6でした。QSLカードと一緒に2枚も SWL カードが届いたのは驚きでした。

今回の8J3M では大変貴重な経験をさせてもらいました。開局に際して大変なご苦勞を頂いたJA3ASU、JH3AEF、JA7AOMほか、関係各局に感謝申し上げます。

# 8J3M/9

## JE9RWF 岩堀 嘉和(福井県)

前回、8J3GAJMC/9(第 27 回日本医学会総会)を 2007 年 5 月 6 日午後 3 時から 5 月 7 日午後 5 時迄、空いた時間に交信数 1258 局させて頂きました。今回もこれ以上にと、思いながら、QRV をさせて頂きましたが、仕事の合間に、なかなか交信数は、前回以上に伸びずに、終わってしまいました。しかしながら、交信の中で大変愉快といましょうか、??と思われる交信の方がおられました。

私は、福井県内道の駅を福井市、鯖江市、越前町の 3 ケ所、他に、自宅、その他移動を行いました。

1 一か所に、2 から 3 回声をかけてくる方が、おられました。その理由をお尋ねすると、特別局は、カードが来ない事が多い為、念のため、複数回声をかけるといわれる方、ハムログやコンピューター管理をしていない為交信しているかないか、わからないからといわれる方。ごころうさんと言って終わる方。

2 車の当て逃げではありませんが、call sign を一回だけ、発砲し後は何も話さない、”かけ逃げ”の方、QRA QTH を尋ねると、call sign だけで、良いだろうと、言われる方、等等。

何故か 通常の CQ QRV では、ないことがありました。

通常の CQ では、ゆっくりとパソコンの key を叩く事ができますが、今回は、指先と、聞く方とがバラバラになりかけ、冷や汗をかくことが度々で、それが、また、この記念局運用の醍醐味かもしれません。

思い出深いひと時を過ごすことができました事をこの記念局の立案からたずさわれた先生、運用の運営に貴重な時間をさかれた先生方に感謝申し上げます。

以上、簡単ながら、感想まで。

### 新入会員

JH1BPF 山徳 義郎 先生 (神奈川県相模原市南区)

JH3QMF 富本 忍 先生 (兵庫県加東市)

JM3FUW 中島 静一 先生 (大阪市住之江区)

JP3CCC 小野田 幸男 先生 (和歌山県有田郡湯浅町)



## A5 ブータンという国から on air して。

JH3AEF 東條純一

五月の連休、三度目のブータン運用を実現することができた。この報告は私がするより MARS 会員であられる JH7EQW 湯浅 涼 OM(写真1)がなされるのが本来の姿だと思っている。



写真1

何故なら A5 でアマチュア無線の運用を発起されたのも、その実現にこぎつけられたのも全て OMのご尽力によるものであるからだ。読者の皆様は「それなら、なんでお前がシャシャリ出てくる」と疑問にお感じになるかも知れない。そこが MARS の面白いところ。

マジアイ付きの5球スーパーに共感したのをきっかけに、同い年、マイク意外に変な形のレンズを付けたカメラを持ってテフテフなるものを追っかけている、すっかり波長が合ってしまうて意気投合しているのだ。こんなくだらないことを書いたらさぞ OM に叱られるだろうな。

話を本筋にもどす。東北大震災のあと、ブータンの若き国王夫妻は被災地をお見舞いくださった。そのお返しにと湯浅 OM が主宰する耳科中耳外科学会の有志がブータンに出向き、

ボランティア活動として対象となる難聴患者を選別し手術し聴力の改善にあたるというのが OM の大志なのだ。スタッフから大きな機材まで現地には全く負担をかけず、医療費も一切徴収しないというのだから、この事業は年ごとに好評で、現地紙には紙面トップに報道され、毎回70~80人もの患者がその恩恵に浴している。彼はその余暇の時間をアマ無線の運用にふりむけたのだ。そこで「AEF、お前は役に立たんから初めから終わりまで、OPE は OPE でも空のほうで OPE をしておれ」と嬉しいお達しをいただいたのだ。EQW は耳科の先生、AEF は無線科の先生というふうな。

実に居心地が良いので今年で三回目の訪問をはたし、また来年もついで欲が出る。

さて、ブータンという国、名前は良く知られているが具体的にどこや?となると少々あやしくなる人も少なくないのでは。それはインドの北辺にあり、北はヒマラヤ山系を介して中国に接している。西はインド領を挟んでネパールに続く。緯度はほぼ石垣島位なのだが便の都合で一度バンコクまで南下し、乗り継いで北北西にもどる。バンコクから約二時間の飛行だ。入出国も非常にスムーズで治安の心配も感じない。人々は素朴で純粋だ。国民総幸せとうただけあって、大部分の人達は堅実な生活を送っているように見え、青少年に対する教育もしっかり行われているようだ。ヒマラヤ山系を控え電力は豊富で輸出するほどだが、他の産業に目立ったものはなく観光に力を入れている。我々も含め全ての外国人旅行者は国によって管理さ

れ、グループであろうと個人であろうと国定のガイド、三食、宿、移動用車両がセットで行動することが義務付けられており、勝手気ままに行動することは許されない。

費用は一人一日約三万円で旅行社を通じて国に納める。他に我々が必要とするのは入国まで、出国後の航空運賃とお土産等にあてる出費のみということになるのか。

ブータン国内には多数の旅行社があり、日本人の勤務するところもある。目的に応じて旅行の手配などは全く他の諸国と変わりなくこれ等の旅行社が行うが、上記のパターンは守られなければならない。

入国に際しては事前に viza の取得が必要で約五千円であった。観光立国を目指しているからか否かは不明であるが手続きは全て e-mail で完了した。このことは次に述べるアマ無線のライセンス取得についても同様であった。湯浅 OM の威光のお蔭か、我々がリピーターであるためか、真偽の程は不明だが簡便なことは真に結構なことだ。

さて、この国でのアマ無線の運用について話を進めよう。ライセンスの取得についてはブータン政府の HP、総合通信局の項に外国人向けのライセンス取得についての規約が明記されている。国名から受ける印象とは裏腹に非常にオープンでわかりやすい。特に必要となるのは日本国発行の従事者免許証、局免の英訳版、いづれも総通局で発行してもらえる。そして、

ブータン政府 HP から DL した開局申請書(写真2)に必要な事項を記載したもので、確か初回はブータン総通局に e-mail 申請したように記憶するが、今回は旅行社に e-mail 添付送付し、数日のうちにライセンスが送られてきた。

勿論、運用の範囲は日本で認められている範囲となる。ただ、ブータン側の決まりは、個人局、クラブ局、サテライト通信局に分類され、運用期間も滞在期間中、一年に、出力は 400W

以下、以上に分類され、それぞれに違った申請料が設定されている。滞在期間中、400W 以下、個人局の場合約一万円、400W 以上の申請料は約五万円と記されている。

### Application for Amateur Radio License for operation in Bhutan (for Foreign Nationals)

#### Guidelines:

- This application form is to be used by person(s) requesting an amateur radio license to operate amateur radio in Bhutan.
- The applicant is expected to have read the relevant provisions of the Bhutan Information, Communications and Media Act 2006, National Radio Rules 2011 and licensing terms and conditions before completing this application form.
- All information fields on this form must be completed. Failure to complete the information will result in the delay in the processing of this application and even rejection of the application.
- The applicant(s) must submit:
  1. Technical specification of each piece of radio equipment to be used
  2. Copy of existing amateur radio license from home country
  3. Passport copy and the travel itinerary
- The detail of the application and amateur radio station and corresponding fees are given in the Table A in the last page of this form.

#### Applicant Details:

1. Surname: TOJO \_\_\_\_\_ Middle name: \_\_\_\_\_ First name: JUNICHI \_\_\_\_\_

**Table A:**

**Information on type of Amateur Radio Station and its corresponding Application and license fees – (Tick where appropriate)**

Type of Amateur Station	Application Fee (Nu)	Annual license Fee (Nu)	Total Fee (Nu)	If the station operates more than 400watts (extra fees payable in Nu)
Terrestrial Amateur stations (individual license)	450	4500	4950	2250
Amateur satellite earth station(individual license)	450	9000	9450	2250
Terrestrial Amateur stations(group license)	450	13500	13950	2250
Amateur satellite earth station(individual license)	450	18000	18450	2250

For more information please contact Radiocommunication division, Bhutan InfoComm and Media Authority (BICMA)

Contact Details: **Telephone:** 02-321506

**Email to:** [radiocom@bicma.gov.bt](mailto:radiocom@bicma.gov.bt) or [bicma@bicma.gov.bt](mailto:bicma@bicma.gov.bt)

**写真2**

CALL SIGN は prefix が A5\_\_ はブータン国民に、A51\_\_ はブータンに長年月在住する外国人に、A52 は短期間運用の外国人に付与される。Safix については特別制限は無いらしく、一文字の人も、我々のように三文字の人もみられる。申請書に希望する call sign 欄がある。

運用場所に特段の制限は無く、我々は諸先達たちにも多く利用されてきたドチュラという峠

の一軒家ホテル(写真3)を毎回利用している。移動する場合、移動先のホテルでの運用も申請すると許可される。先述のホテルは標高 3150m の峠近くにあり、ほぼ全方位に向かって開けている。見晴らしがすこぶる良く、天候の良い日には遠く雪に輝くブータンヒマラヤ(写真4)を眺めることもできる観光スポットである。



写真3

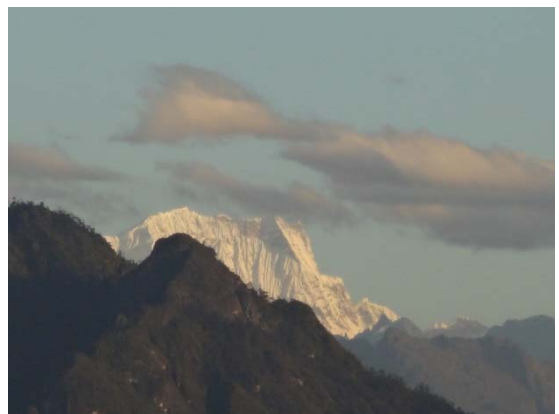


写真4

しかし、行程の関係上、宿泊客を目にすることはほとんどない。交通事情も悪くなく、空港から

約三時間、電力事情は非常に良好、ANT の設営などに窮することも無い。周りに民家があるわけでもなく TVI 等の心配も全くない。ただホテル内のテレビには??? 気をつけなければならないが、総合的にみてアマ無線には打って付けのロケである(写真5)。



写真5

そして大切な食と住などこのホテルの住み心地についてもお話ししよう。とにかく高度 3150m は侮れない。到着の日には出来るだけスローに行動しなければすぐに息切れしてしまう。翌日には大方解消するのだが。建物は二階建て、二階は客室、一階は事務所と食堂、厨房など。山国だけあって、床から壁から天井まで全て木造り、それも材木から切り出した荒削りの板をふんだんに使ってニスを塗っただけのいたってシンプルな造りだ。国土の大部分を森林に覆われるこの国だからこそこの設えである。ただ感覚的にはこの国いや民族固有の feeling によって 100%仕上げられており、西洋の地で培われてきた feeling や design は全く入り込む余地はないのだ。ただ生活の都合上は西洋風に椅子やテーブルが配置されており、客室には西洋風に洗面台もトイレも備えられている。温水シャワーもあり、バスタブの備わった部屋もある。トイレは水洗、暖房は真冬以外は全て電気である。



写真6

朝食は西洋風だが昼夜はブータン料理、やはり辛いものも多い。小骨の多い川魚のフライ、鳥の料理といっても決して丸々太った鳥ではないのだ。従業員は近傍の村々出身と見受ける若い女性ばかり、暇ができればペチャペチャ、キヤーキヤー明るくてにぎやかだ。ホテル内には昼間は多くの男性も見られるが、何れも旅人のグループに配属されたガイド達だった。このガイド達もホテルの従業員の女性達もみな決まった民族衣装を身に着けている。街を歩いても民族衣装を着ている人が大部分で、いわゆる洋服姿の人にはめったにお目にかからなかった(写真7)。



写真7 中央 JA1CJA/JH3LSS、左 JA3IVU

首都はティンブー、国際空港があるのは数十キロ離れたパローという町であるが、街の中

心部を少し離れると田や畑の田園風景が広がり、懐かしい日本の原風景を彷彿とさせてくれる。空港には計器誘導システムは無く、離着陸は機長の腕次第、険しい山々の間を縫うように着陸する様は、翼が尾根にひっかかりそうでスリル満点だ。そのような場所にある空港だから天候の影響をきわめて受けやすく、欠航や天候待ちをすることが頻繁だ(写真8)。

以上、A5 という国についてハムの目をどうした印象をお話させていただいた。機会があれば運用についてなどお話をしようと思っている。

また、一度 A5 を訪れてみたい、一度 DX から波を出してみたいなどお考えの方がおいでになれば、ヒヤカシでも良い、お声掛けください。JH7EQW om 共々大歓迎です。また

XT2 西アフリカの国ブルキナファソについても同様、お声掛けをお待ちしています。楽しい

DXing 旅行になることでしょう。



写真8

## 最後の趣味、アマチュア無線

### JH6IBM 石井 文理(福岡県)

大学時代は、一時、スキー部や茶道部(裏千家)に所属していました。また海が好きで一級小型船舶免許も取得しました。その頃から楽しんでいたのが王様の趣味、アマチュア無線です。でも携帯電話の普及により私が副会長をしていた久留米44ハムクラブは解散しました。ただ、日本医師アマチュア無線連盟には昔から入会しておりQSO(無線による会話)を楽しんでいます。毎週水曜日AM6:30頃から7.06MHz前後に出ています。今年5月31日久留米で総会を開催しました。全国から80代の医師も含め14名の参加者がありました。全国総

会は福岡県では3回目ですが、2回目、2003年日本医学会総会が福岡市で開催された時は福岡県医師会の理事でもあり、アマチュア無線の資格を取得されていた横倉先生(その後日本医師会会長)に挨拶をして頂きました。無線で印象に残ったのが、ヨットで太平洋を横断した、堀江謙一氏と2回、QSOLした事です。最近インターネットや人工衛星の普及によりAPRS(自動パケット通知システム)を使い気軽に世界中の人々とQSOが出来るようになりました。ぜひ、皆様も自宅で海外と交信できるアマチュア無線を楽しんで下さい。

# 万引き捕物帖

## JR1CDJ 大久保 嘉明 (埼玉県)

アマチュア無線とは縁もゆかりもない話だが、偶然出くわした珍しい体験。

平成 27 年 2 月 6 日夜、人間ドック受診 2 日前、アルコール抜きの日。気温 6℃くらい、微風で結構寒い。診療を終えて夕食を済ませ、体力増進のため 3kg ほどのリュックを背負って、横断歩道や跨線橋の階段上り下りを織り交ぜた、1 時間あまりのいつもの散歩コースに出かけた。

### 男二人

その帰途だった。20:20 頃、JR 高崎線を跨ぐ本宿陸橋の側線階段を東側に降りて跨線橋下を出たところで、後方を大声でわめきながら二人の男たちが走り抜けていった。不審に思ったカミさんが数メートル引き返して後ろ姿を見ようとした。

「あれ？もう見えなくなっちゃった」

そしたら突然、右側駐車場の奥でガチャーンと音がして、一人の男が境界フェンスを乗り越えて突進して来た。フェンスに片足が引っかかったらしく、片方の靴が脱げて、駐車場につんのめった。そしてすぐ後ろから若い男が追いかけてきて、腹ばいになった禿げ頭の男に覆い被さって羽交い締めにした。現場は細かい砂利敷きのアパート用駐車場。まさにすぐ目の前での出来事だった。

「どうした？」

と声をかけたら、

「万引きです」

### 手伝いましょう

義侠心と言ったら聞こえは良いが、要するに

野次馬根性。

「え？分かった、手伝おう」

逃れようと必死で藻掻いて暴れる一見 50 代がらみの小太りの男を二人で押さえつけた。

「お店は？」

「M 店です。警察を呼んでください！」

「分かった」

手の空いているカミさんが「110 番」通報(後刻確認の記録では、20:25)

「おに一さん、俺は何にもやってないよー」

大声でわめく。

「じゃーなんで逃げるんだ？初めてじゃないだろう」

「お宅じゃ初めてだよー」

二人で捕まえているのがやっとの藻掻き方だ。

「おに一さん、示談にしてよ、倍払うから」

「だめだ」

フェンスを乗り越えて飛び降りたとき、片方の靴が脱げ、両手をついてつんのめったとき持っていた靴もその辺に投げ出されていた。

「おに一さん、もう逃げないから離してよ」

「だめだ、逃げようとするじゃないか」

それでも必死で立ち上がった男をまた二人で押し倒したが、今度は店員さんが仰向けだ。脱げかけた男のジャンパーを掴んで遮二無二ひっくり返す。どんな状況になっても男を離さない店員さんの執念は立派。男は終始逃れようとじたばたしているの、一時も手を緩められない。

### パトカー早く来てくれー

「それにしても警察遅いねえー、お母さんもう一度 110 番してー」(同、20:31)

目の前のアパートから、それまでカーテンを細めに開けてガラス戸越しに覗き見していた中年の女性が出てきた。のんびり捕り物劇を眺めている。

「おに一さん、示談にしてよー、5 倍払うから、いや 10 倍払うから」

「だーめ」

そうこうするうちに、待ちに待ったパトカーのサイレンが聞こえてきた。現場から中仙道の本宿交差点が見える。赤色点滅灯が 17 号バイパス側から南大通り線を直進してきた。カミさんが強力な LED ライトをぐるぐる回してこちらの位置を知らせた。

『赤信号で緊急車両が直進しまーす。青信号の車両は停止してください』

大きなアナウンスとサイレンなのに、なかなか中仙道の車は止まってくれない。

結局パトカー 3 台と覆面 1 台が集結してくれた。随分待ち遠しい思いをしたが、最初の 110 番から僅か 10 分足らずだったようだ。ちなみに携帯電話で通報すると、警察には GPS で発信場所が分かるとのこと。

### 万引き犯引き渡し

素早くパトカーから降りてきた警官の叱責怒号は迫力満点、なんとも頼もしい。

店員さんと小生はやっと肩の荷を下ろせた。

若い店員さんに

「よーく頑張ったわねえ」

カミさんが労った。

「有り難うございました」

深々と頭を下げた。

鞆には、万引きした品物が詰め込まれていた。

3 人の警官に押さえつけられても、相変わらず大声で、

「痛えーじゃねーか」

「おまえが暴れるからだ、温和しくしろ、逮捕する」

手錠がかけられた。

### 事情聴取

その後店員さんと小生夫婦には、事情聴取のため鴻巣警察署への出頭依頼である。

「一度帰ってから車でいきます」

急ぎ帰宅してリュックを下ろし、用を済ませて押っ取り刀で馳せ参じた。

21:18 鴻巣警察署。事情聴取されるのは今回で 3 回目だ。1 回目は自宅に侵入した酔漢を捕まえたとき。2 回目は、保健所に用があつて鴻巣警察署前交差点で右折待機していたとき、車線変更に失敗した対向車にぶつけられた「もらい事故」。

聴取係の警官が「時間がかかりますけど・・・」と、恐縮しながらこちらの話をパソコンに打ち込み、規定の「事情聴取マニュアル」通りの調書が作製された。今回初めて知ったが、参考人調書の頭書きは、「住所」「生年月日」を省略して「氏名」「年齢」「性別」「日付」だけ。被疑者に伝わらないようにするためとか。

そして延々 4 時間後、日にちが変わって 7 日の 01:20 頃やっと釈放！やたら眠い。真夜中の 17 号バイパスを慎重運転で帰宅。

警察としては聴取に時間がかかるのはやむを得ないだろう。しかし参考人として長時間拘束される煩わしさを考えると、多くの人が事件に拘わりたくない気持ちも分かる。

ま、それはそれとして、今回の関与がドック前夜でなくて本当に助かった！

### 地獄から生還の後日談

ドックの翌々日(2月10日、火曜日)、医師会

事務局から電話。受けた当院の事務が「奥さんは今、市役所に出かけています」「では後ほどかけ直します」

帰宅したカミさんに「ドックの病院から連絡があって、検査結果に異常があるので直接結果を送ります、とのことです」「えーっ！いやだー」

「別便での知らせとは只事ではない。余程悪い結果に違いない。こんなに元気なのに、一体何なのだろう、すぐ入院か？」とカミさん落ち込み、身辺整理を始めた。

そして翌 11 日建国記念日の午後、【特定記録の速達便】という耳慣れない封書が届いた。ドキドキして開封してみると、問題の異常値はカミさんではなくて、小生の検査結果だった。カミさんは安堵し、そして小生もその内容を見てホッとすると同時に二人で大笑いしてしまった。

『心電図に心筋虚血の変化はないようですが、CK(682)が高値なので、再検(アイソザイムも)

と経過観察を』とのドック担当先生からの親切なお知らせだった。

まさにドック 2 日前の慣れない捕り物で、筋肉を酷使したための CK 値上昇だろう。昨年もし高め(298)だったのは、前日の雪掻きと、当日大雪の中苦勞して歩いて行ったせいだったか？

以前も東松山の「スリーデーマーチ」で、10 時間余りかかった 50km ウォーキング翌日の血液で、CK 値 1600 と出て検査室から緊急電話をもらったこともあった。

それにしても、お世話になったドックの病院と担当先生には大迷惑をかけてしまった。急いでお詫びの手紙を認めた。

『お騒がせして誠に申し訳ありませんでした。事件直後から執筆中の駄文を同封致します。CK 値上昇はこの一件が原因と思います』

## MARS 会員の皆様ありがとう！ ---年間賞受賞者の弁

### JH2DLJ 川上 正直



「おやっ。こりゃ奇跡的だ。」私が MARS 医学アワードクラス B の申請のためのログリストを検討していた時です。ルールは次のようにいいます。『全医学者名を通じて、MARS 会員のカードを一枚含むこと。また、このカードはどの文字にも代用できる。』と。これに沿って、全医学者名のアルファベットを縦に書いて手持ちのカードのコールサインのテールレターをあてはめてみました。そこに MARS 会員のテールレターを配置しました。わくわくの瞬間です、すると、「どの文字にも代用することなく、全医学者に MARS 会コールサインのテールレターを入れる」



ことができたのです。しかも手持ちの MARS 会員のコールサインは 10 局分のみ。それぞれの医学者に MARS 会員は入る訳ないだろうと心配していたのです。それがピタッとはまりました。テンションがあがった瞬間でした。

私のハムログに入っている総交信数は 7 万件あまり。申請に使った MARS 会員からもらった QSL を調べました。申請リストの交信年月日で一番古いものは 1998 年 8 月 21 日、JJ2BBR 局との交信、7MHz、SSB。JJ2BBR/2、岐阜県武儀郡板取村。2005 年に関市と合併。今はもうありません。かくして保存していたカードが役立ちました。

最新は JH8GXN 局との交信。2013 年 8 月 21 日、7MHz、SSB。私が /7、秋田県山本郡三種町で移動運用をしたときにコールをいただきました。この QSL をいただいたおかげで申請に至りました。したがってあしかけ 15 年の月日を経て申請にこぎつけることができた、と言えるのです。MARS 会員との交信と QSL 受領が申請のキーポイントになりました。

さて、このたびは年間賞を受賞いたしました。2015 年 4 月 26 日、ちょうど、山梨県で移動運用を行いました。夕方帰宅したら「電子機器が届いているよ。」と私の XYL が、届いた荷物に目をやります。「何だろう。おや、けっこう大きなものだな。」と言いながら、片づけもそこそこに、

包みを開けました。「わお。ハンデイトランシーバー、VX-3 だ。」「なんで?」「あ、封書がある。」「すごい。MARS 医学アワードの年間賞を受賞したんだ。」と私は大喜び。夕食はひとときわ美味しいお酒になったことを一言付け加えて筆をおきます。まことにありがとうございました。団塊世代の JH2DLJ でした。

最後に私個人が発行するアワードを紹介します。

### 「川上」50 個所達成賞

JH2DLJ が発行する『地名「川上」でポーズシリーズ』を 1 番から 50 番まで発行した局に贈呈する。A5 版。副賞も添える。

個人アワードのため、交信していただいたことに感謝し、無料。

JH2DLJ のログの記録で受賞者がわかるので、申請は必要なし。



## 「川上」スリーウェイ

### JH2DLJ 川上 正直(静岡県)

地名「川上」のよみがなをふりなさい。「なに、こんなものはあまりにも簡単すぎて、よみがなをふるまでもないじゃないか。‘かわかみ’

だよ。」  
正解です。でもほかの読み方もありますね。「ふーん。じゃ、‘かわうえ’だな。」

その通りです。平成の合併前は岐阜県恵那郡川上村がありました。ここは‘かわうえむら’と呼ばれていました。今は中津川市川上です。東隣の長野県木曾郡南木曾町へ抜ける山道には川上峠があります。

「ということは旧川上村は長野県と境を接している、というわけだね。この峠も‘かわうえとうげ’か。ここには、道の駅があるよね。岐阜県 49 番五木の館・かわうえ、だよ。」



No.15 岐阜県中津川市川上(かわうえ)

訪問日、2009 年 9 月 23 日

‘ごぼくのやかた・かわうえ’ですね。‘いつき’と読み間違えますよね。木曾で産する 5 つの種類の木を言うのだそうです。

では、さらに別なふりがなを付けるとなんと読むのでしょうか。2ヶ所、同じ岐阜県内の別々な場所にあります。

「えー、わからないなあ。何と読むのかな。」

答えは‘かおれ’です。

「うわっ、そう読むの。それは特別な読み方だな。」

‘かおれ’は岐阜県に 2ヶ所。岐阜県以外この読み方をしているところはありません。

「一か所目は。どこなの。」

中津川市中津川川上です。中津川市内国道 363 号線沿いです。川上集落に行く途中に「文楽の里、川上」を案内する看板があります。



No.14 岐阜県中津川市中津川川上(かおれ)

訪問日、2009 年 9 月 23 日

「ああ、これね。川が‘か’、上が‘おれ’ですか。川はいいにしても、上が‘おれ’と読ませてしまった。絶句だな。」

この川上は恵那山への東側からの登山口です。ウェストン記念公園があってイギリス人の登山家ウェストンの胸像があります。ウェストンがこの川上から恵那山に登ったということです。

「川上から 363 号線で山越えすると恵那市岩村、岩村城に出るわけね。」

はい。ついですが、「言志四録」を書いた、佐藤一斎はこの岩村藩の出です。

「で、2か所目は近いのかな。」

まあ、それ程近いとは言えません。中津川市の北隣、下呂市馬瀬川上です。

「下呂市馬瀬川上、最後の 2 字は‘かおれ’だね。あとはなんと読むの。」

‘げろしまぜかおれ’です。馬瀬がついているところに注目ですね。

「どうして。」

平成の合併で下呂市に編入した村です。益田郡馬瀬村です

「‘ますだぐんまぜむら’だな。」

いえ、読み方は‘ましたぐん’です。平成 4 年 3 月 1 日に益田郡に属する 5 町村が下呂市を作

ったわけです。

「下呂温泉が全国に知られているから下呂市となったのだろうか。」

そうですね。では川上岳がこの集落の北側にあるのを知っていますか。

「川上岳、‘かおれだけ’だね。ということは川上集落は川上岳への登山口だね。」

ご明察のとおり。登山口の一つです。

「標高はどのくらいなの。」

1625.9mです。頂上付近は笹で、眺望は抜群だそうです。

下呂方面から国道 257 号線を北上すると川上を通過して高山市方面にぬける川上トンネルがあります。

「これも‘かおれトンネル’だね。」

そうです。出入り口の上にはひらがなのプレートがあります。

「なるほど、川上は 3 通りの読み方があったね。」

それにしても、‘かおれ’が岐阜県内に 2 ヶ所あ

って、それ以外どの都道府県にもこの読み方がない、というのは興味深いな。「川上」についての蘊蓄をありがとう。たかが川上だが、されど川上だったね。」



No.19 岐阜県下呂市馬瀬川上(かおれ)

訪問日、2014 年 5 月 16 日

※Note 数字は、マイ QSL、地名「川上」シリーズのカード番号

## 日本医師アマチュア無線連盟(MARS)の活動と入会方法について

MARS は、1977年(昭和52年)に創設されたドクターハムの親睦のための団体で、既に38年の歴史を持ち、次のような活動を行っている。

### 1) 総会と懇親会

毎年4月の第一土曜日の午後、全国各地で総会と懇親会を開催している。(平成28年は4月23日に福島市において開催予定)

2) 毎水曜日の朝、3.562MHz(06:00~06:30)及び7.060MHz(06:30~07:00)付近でロールコール(MD ネット)を行っている。

3) 日本医師アマチュア無線連盟会報(MARS ニュース)を年2回発行している。

4) MARS 医学アワードおよびMARS 医学アワードⅡの発行。

5) クラブ局(JM1ZZM)を設置している。

6) MARS のホームページを開設している。

URL は <http://www.jmars.jp/>

(談話室へのパスワードは mars)

事務局:

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11  
井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail [fumimasa@cb3.so-net.ne.jp](mailto:fumimasa@cb3.so-net.ne.jp)

会費 : 入会金 5,000 円、年会費 8,000 円

入会方法: 事務局にご連絡下されば、入会書類をお送りします。

会長 及川忠人(JA7AOM)

## 庶務とMARS ニュース

入・退会、コールサイン、住所の変更などの事務手続きはMARS事務局へ。

(事務局)

〒175-0092 東京都板橋区赤塚4-17-11

井上医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 03-5968-5777

F A X 03-5968-5778

E-mail fumimasa@cb3.so-net.ne.jp

MARS ニュースへの御寄稿は、

〒640-8331

和歌山市美園町5-1-8山榮ビル3階

眼科田中クリニック内 MARSニュース編集部

電話 073-427-3010

F A X 073-427-2135

E-mail marsnews@tanakaclinic.jp

まで、お送りください。

パソコン(またはワープロ)の場合、再入力の手間を省くため、フロッピーディスクもしくはCD-Rの郵送、またはE-mailでお送りください。特殊記号などが文字化けすることがあり、プリントアウトした原稿もファックスまたは郵送してください。

手書き原稿もOKですが、なるべく上記の方法でお願いします。

写真は紙焼きの郵送でもE-mailでも結構ですが、高画質画像をMOまたはCD-Rに保存してお送り下されると、さらにFBな仕上がりになります。なお、紙面の都合により、原稿を短縮させていただいたり、写真の選択やトリミングをさせていただくことがありますので、ご了承ください。

## 編集後記

今号の表紙は記念局のQSLカードで飾りました。8J3M という夢のようなコールサインで運用させていただくことが出来まして感謝申し上げます。

長い間ともにQSOしてなかったのですが、一気にたくさんの方とQSOさせていただきました。「そこは去年行ったことがあります。」とか「一昨年家族で行って、こんなところで食事しました。」とか、パイルアップを受けながら響感を買っていたのかも知れませんが、いろいろお話をさせていただきました。中には、QSOして下さった相手局の町の観光ガイドやパンフレットなんかをレターパックで送って来てくださった方もありました。

ご寄稿いただいた皆様におかれましては、ご多忙中のところありがとうございます。

4年後の名古屋での医学会総会の際にも8J2Mでもっとたくさんの方の会員様に運用にご参加いただいて、思い出に残る記念局の運用をしていただきたいと存じます。

では、皆様、来年の福島総会でお会いいたしましょう。

73 & 88

### 日本医師アマチュア無線連盟会報

(第75号)

発行：日本医師アマチュア無線連盟

発行日：平成27年10月1日

編集：田中憲児(JF3JON)

印刷：西岡総合印刷株式会社

Tel073-425-1341 Fax073-436-0855

URL <http://www.nishioka.co.jp/>

E-mail [info@nishioka.co.jp](mailto:info@nishioka.co.jp)